

Kao Corporation

14-10, Nihonbashi Kayabacho 1-Chome Chuo-ku, Tokyo 103-8210 Japan

File No. 82-34759
November 30, 2005

Office of International Corporate Finance
Division of Corporation Finance
Securities and Exchange Commission
Room 3094 - Stop 3-6
450 Fifth Street, N.W.
Washington, D.C. 20549
U.S.A.



05013132

SUPPL

RECEIVED
2005 DEC - 7 P 2:21
OFFICE OF INTERNATIONAL
CORPORATE FINANCE

Re: Kao Corporation - 12g3-2(b) exemption

Ladies and Gentlemen:

In connection with our exemption as a foreign private issuer pursuant to Rule 12g3-2(b) under the Securities Exchange Act of 1934, we hereby furnish the Securities and Exchange Commission with the following information required by Rule 12g3-2(b).

Annex A lists all documents published, filed or distributed by Kao since November 1, 2005 pursuant to the above requirements and practices. To the extent required by Rule 12g3-2(b)(4) or as otherwise already available, English translations or summaries are attached. Brief descriptions of the remaining documents for which no English language version has been prepared and original Japanese documents of Annex A are set forth in Annex B hereto.

If you have any further questions or requests for additional information please do not hesitate to contact Vice President, Legal Global at 011-813-3660-7404 (telephone) or 011-813-3660-7942 (facsimile).

PROCESSED

Very truly yours,

DEC 12 2005

THOMSON
FINANCIAL

Kao Corporation

By

Name: Tadaaki Sugiyama

Title: Vice President
Legal-Global

Enclosures: Annex A
Annex B

LIST OF DOCUMENTS PUBLISHED,
FILED OR DISTRIBUTED SINCE
November 30, 2005

RECEIVED
ANNEX A
2005 DEC -7 P 2:51
OFFICE OF INTERNATIONAL
CORPORATE FINANCE

A. JAPANESE LANGUAGE DOCUMENTS

- (1) Semi-Annual Securities Report dated November 15, 2005 for the six-month period ended September 30, 2005 (A brief description in English is set forth in Annex B)
- (2) Report on the Acquisition of Treasury Shares dated: November 11, 2005 (A brief description in English is set forth in Annex B)
- (3) Interim Business Report for the six months ended September 30, 2005 (A brief description in English is set forth in Annex B)

RECEIVED

ANNEX B

2005 DEC -7 P 2:51

ENGLISH DESCRIPTION OF
JAPANESE LANGUAGE DOCUMENTS
LISTED IN ANNEX A

- (1) Semi-Annual Securities Report dated November 15, 2005 for the six-month period ended September 30, 2005

A semi-annual securities report is required to be filed under the Securities and Exchange Law of Japan within three months after the end of the first half of each fiscal year and sets forth, among other things, the results of operations during such six-month period. The discussion of the results of operations during that period included the following consolidated financial information for Kao:

Income statement line item*	Six months ended 9/30/2005 (in billions)	Change compared to the six months ended 9/30/2004
Net sales	¥483.0	3.0%
Operating income	¥63.0	1.0%
Net income	¥38.4	1.9%

*Note: All figures are based on generally accepted accounting principles in Japan.

The semi-annual securities report is available for public inspection at the Kanto Local Finance Bureau and the main office of Kao for three years.

- (2) Reports on the Acquisition of Treasury Shares

Pursuant to the Securities and Exchange law of Japan, a report on the acquisition of treasury shares must be filed every month after the shareholders' resolution authorizing the purchase of treasury shares or at the time such treasury shares are acquired for the purpose of canceling them. Reports are filed with the Director of the Kanto Local Finance Bureau and are available for public inspection at the Kanto Local Finance Bureau and at the main office of Kao for one year.

The report(s) filed since November 1, 2005 include the following information:

- i. November 11— On June 29, 2005, Kao's shareholders authorized Kao to repurchase up to 20,000,000 shares of its common stock, or 3.6 % of its issued shares of common stock, for up to ¥50,000,000,000.
As of October 31, 2005, Kao had issued 549,443,701 shares of common stock, and held 2,397,514 of them.

- (3) Interim Business Report for the six months ended September 30, 2005 (A brief description in English is set forth in Annex B)

Interim business report is sent to the shareholders as of the end of the first half of each fiscal year. It contains the information on interim financial results, Kao's future operational strategies and new products.

Interim business report is available on Kao's website at

<http://www.kao.co.jp/corp/ir/i05/index.html>.

Exhibit A-1

RECEIVED

2005 DEC -7 P 2 51

OFFICE OF INTERNATIONAL
CORPORATE AFFAIRS

半 期 報 告 書

第 1 0 0 期 中

[自 平成17年 4 月 1 日
至 平成17年 9 月 30 日]

花 王 株 式 会 社

東京都中央区日本橋茅場町 丁目14番10号

(2 6 4 0 0 7)

目 次

表紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 事業の内容	3
3. 関係会社の状況	3
4. 従業員の状況	4
第2 事業の状況	5
1. 業績等の概要	5
2. 生産、受注及び販売の状況	10
3. 対処すべき課題	11
4. 経営上の重要な契約等	11
5. 研究開発活動	12
第3 設備の状況	13
1. 主要な設備の状況	13
2. 設備の新設、除却等の計画	13
第4 提出会社の状況	14
1. 株式等の状況	14
(1) 株式の総数等	14
(2) 新株予約権等の状況	14
(3) 発行済株式総数、資本金等の状況	17
(4) 大株上の状況	17
(5) 議決権の状況	18
2. 株価の推移	18
3. 役員等の状況	19
第5 経理の状況	20
1. 中間連結財務諸表等	21
(1) 中間連結財務諸表	21
(2) その他	44
2. 中間財務諸表等	45
(1) 中間財務諸表	45
(2) その他	54
第6 提出会社の参考情報	55
第二部 提出会社の保証会社等の情報	55

中間監査報告書

【表紙】

- 【提出書類】
【提出先】
【提出口】
【中間会計期間】
【会社名】
【英語名】
【代表者の役職氏名】
【本店の所在の場所】
【電話番号】
【事務連絡者氏名】
【最寄りの連絡場所】
【電話番号】
【事務連絡者氏名】
【縦覧に供する場所】

半期報告書
関東財務局長
平成17年11月15日
第100期中（自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日）
花王株式会社
Kao Corporation
代表取締役 社長執行役員 尾崎 元規
東京都中央区日本橋茅場町一丁目14番10号
03（3660）7111（代表）
執行役員 会計財務部門統括 三田 慎一
東京都中央区日本橋茅場町一丁目14番10号
03（3660）7111（代表）
執行役員 会計財務部門統括 三田 慎一
株式会社東京証券取引所
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】
1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回数	会計期間	第80期中	第89期中	第100期中	第88期	第99期
		3月31日～4月1日 平成16年9月30日	3月31日～4月1日 平成16年9月30日	3月31日～4月1日 平成17年9月30日	3月31日～4月1日 平成16年9月30日	3月31日～4月1日 平成17年9月30日
売上高	百万円	446,989	469,039	433,068	962,627	936,851
経常利益	〃	61,993	64,620	63,638	122,651	125,345
中間（当期）純利益	〃	31,944	37,761	38,436	65,358	72,180
純資産額	〃	408,783	450,018	479,385	427,756	448,349
総資産額	〃	708,374	715,918	726,311	723,891	686,372
1株当たり純資産額	円	752.07	812.63	830.98	782.14	821.47
1株当たり中間（当期）純利益	〃	57.87	68.51	70.75	119.06	131.16
潜在株式調整後1株当たり中間（当期）純利益	〃	58.42	67.01	70.36	113.98	129.69
自己資本比率	%	57.7	62.1	66.0	59.1	65.1
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	52,011	59,130	64,695	117,928	109,367
投資活動によるキャッシュ・フロー	〃	△13,527	△31,030	△45,146	△37,348	△54,407
財務活動によるキャッシュ・フロー	〃	△41,910	△48,496	△15,413	△49,323	△90,657
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	〃	73,491	85,907	75,511	107,151	79,409
従業員数 （注、平均臨時雇用者数）	人	19,539 （2,611）	19,218 （2,823）	19,591 （3,003）	19,330 （2,602）	19,143 （2,816）

（注）売上高には、消費税等は含まれておりません（以下も同様であります。）

(2) 提出会社の経営指標等

同次	第88期中 2021年4月1日 至2021年9月30日	第89期中 2021年4月1日 至2021年9月30日	第100期中 2021年4月1日 至2021年9月30日	第98期 2021年4月1日 至2021年3月31日	第99期 2021年4月1日 至2021年3月31日
売上高	百万円	228,016	248,807	349,450	694,665
経常利益	"	54,025	54,745	53,875	101,588
中間(当期)純利益	"	31,351	34,006	35,114	61,011
資本金	"	85,434	85,434	85,434	85,434
発行済み株式数	千株	599,443	574,443	549,443	549,443
純資産額	百万円	397,336	442,646	457,594	435,329
総資産額	"	602,432	629,219	624,146	605,005
1株当たり純資産額	円	731.01	799.32	849.23	797.83
1株当たり中間(当期)純利益	"	36.78	61.70	65.94	111.19
1株当たり中間(当期)純利益	"	54.38	69.35	64.86	111.84
1株当たり中間(年間)純利益	"	16.69	19.09	25.00	38.09
自己資本比率	%	66.9	70.3	72.4	72.0
従業員数	人	5,742	5,771	5,677	5,609

2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。
また、主要な関係会社における異動はありません。

3【関係会社の状況】

当中間連結会計期間において、新たに設立、買収した主な会社は、次のとおりであります。

名称	住所	資本金	主要な事業内容	議決権の所有割合(%)	関係内容			営業上の取引	関係の提供・借受
					役員・兼任等	資金援助 貸付金 (百万円)	当社の 役員 (名)		
※1 Kao Prestige Limited	英国	100,000 千英ポンド	欧州を中心とした化粧品事業	100.0	—	—	1	なし	なし
Molton Brown Limited	英国	516 千英ポンド	化粧品	※2 100.0 100.0	—	—	—	なし	なし

(注) 議決権の所有割合の「—」内は、間接所有割合で内数であります。

※1は、特許子会社であります。

※2は、Kao Prestige Limitedの100%子会社であるMolton Brown Group Limitedが所有しております。

当中間連結会計期間において、新たに持分法適用関連会社になった主な会社は、次のとおりであります。

名称	住所	資本金	主要な事業内容	議決権の所有割合(%)	関係内容			営業上の取引	関係の提供・借受
					役員・兼任等	資金援助 貸付金 (百万円)	当社の 役員 (名)		
※1 Kao Kao LLC	アメリカ 合衆国	千米ドル 52,000	家庭用製品	※2 50.0 50.0	—	—	1	なし	なし
昭和興産株式会社	東京都 港区	550 百万円	T美容製品	20.7	1	—	—	当社と入 商品の取 入先及び 当社製品 の販売先	なし

(注) 議決権の所有割合の「—」内は、間接所有割合で内数であります。

※1は、当中間連結会計期間において、連結子会社から関連会社になりました。

※2は、Kao Brands Companyが所有しております。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成17年9月30日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数（人）
家庭用製品事業	11,938 (1,541)
化粧品事業	3,296 (1,347)
工業用製品事業	3,090 (50)
全社（共通）	1,267 (66)
合計	19,591 (3,003)

(注) 1. 従業員数は就業人員（当社グループ（当社及び連結子会社）からグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含んでおります。）であります。（ ）内は臨時雇用者数の当中間連結会計期間の平均人員であり、外数で記載しております。

2. 臨時雇用者は、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。

3. 全社（共通）は、特定のセグメントに区分できない管理部門等の従業員数であります。

4. 当中間連結会計期間より、化粧品（ソフィーナ）事業を「化粧品事業」に名称変更しております。

(2) 提出会社の状況

平成17年9月30日現在

従業員数（人）	5,677
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含んでおります。）であります。

(3) 労働組合の状況

一部の事業所には労働組合が組織されておりますが、労働組合との間に特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当中間連結会計期間の日本経済は、個人消費の緩やかな増加や、企業収益の改善及び設備投資の増加など、民間需要に支えられて、緩やかに回復しています。また、世界経済も、米国やアジアを中心に着実に回復しています。しかし、原油価格の高止まりからくる国内外の経済への影響や、国内の定率減税の見直し路線などにより、個人消費は先行きに不透明感が窺われる状況です。このような環境の中で、当社グループは製品の高付加価値化を推進し、市場の活性化を図ってきました。

このような状況の下、当中間連結会計期間の売上高は、前年同期より14,058百万円増加し483,098百万円（前年同期比+3.0%）となりました。海外売上高の円安による換算差益（+350百万円）の影響を除いた実質的な成長率は2.9%でした。

国内事業の売り上げは11.6%の伸びとなりました。家庭用製品では、市場競争の影響を受けて、緩やかながらも販売価格の低下が続きましたが、高付加価値新製品の発売及び積極的なマーケティング活動による寄与で、売り上げを拡大しました。工業用製品では、新規開発製品の伸長により強固に推移しました。

一方、海外事業の売り上げは、構造改革と日本との一体運営に取り組んでいるアジアの家庭用製品では伸びたこと、および、家庭用製品と工業用製品は順調に推移し、8.0%の伸びとなりました。

売上原価は、前年同期の198,854百万円から6.0%増加し、210,722百万円となりました。売上原価率は、販売価格の下落や石油化学製品などの原料価格の上昇を、付加価値の高い新製品の上市や、継続して注力しているエコストダウン活動などで吸収されず、1.2ポイント上昇して43.6%となりました。

販売費及び一般管理費は、前年同期に比べて0.8%、1,684百万円増加し、209,305百万円となりました。新製品の上市、既存品の有価や販売強化のための費用が増加しました。

これらの結果、営業利益は606百万円増加し63,070百万円（前年同期比+1.0%）となりました。

営業外利益は、前年同期の2,156百万円の収益（純額）から、567百万円の収益（純額）に減少しました。これは、主として持分法による投資利益が、前年同期の投資利益から投資損失に転じたことによるものです。

この結果、経常利益は63,638百万円（前年同期増+981百万円）となりました。

特別損益は、1,152百万円の損失（純額）となり、前年同期とはほぼ等しいに推移した結果、税金等調整前中間純利益は62,486百万円（前年同期増+1,121百万円）となりました。

税効果会計適用後の法人税等の負担率が、子会社の赤字額の減少や海外子会社の税率差などにより、前年同期の40.0%から37.4%に下がりました。中間純利益は38,486百万円（前年同期増+725百万円）となりました。

1株当たり中間純利益は70.75円/株となり、前年同期の68.51円/株より3.3%増加しました。

(注) 売上高には、消費税等は含まれておりません（以下も同様であります。）。

事業の種類別セグメントの業績

	売上高		営業利益	
	当中間連結会計期間（百万円）	前中間連結会計期間（百万円）	当中間連結会計期間（百万円）	前中間連結会計期間（百万円）
家庭用製品事業	353,102	346,586	47,330	47,758
化粧品事業	39,307	39,339	△32	4,348
工業用製品事業	103,812	96,591	11,707	10,359
小計	496,251	482,518	62,915	62,365
消去	△13,153	△13,478	152	98
合計	483,098	469,039	63,070	62,464

(注) 当中間連結会計期間より、「化粧品（ソフィーナ）事業」を「化粧品事業」に名称変更しております。

(イ) 家庭用製品事業

家庭用製品の売上高は、前年同期に対して1.9%増の553,102百万円となりました。国内事業は前年同期に対して1.4%の増加となり、海外事業は米州を中心に増加しました。営業利益は、日本での販売価格の低下と世界的な原材料価格の高騰の影響を受け、前年同期に対して428百万円減少の47,330百万円となりました。

【日本】

市場は、販売価格の下落傾向が緩やかながらも継続しており、主要製品の価格水準は前年同期に対して1ポイント程度低下する状況にあります。販売チャネルでは、ドラッグストアの伸長が続いています。こうした中で当社グループは、市場シェアの拡大を図るべく、基幹ブランドの一層の強化と新製品の発売、育成に努めました。また、マーケティングと販売が一体となったチャージングと、エリアごとの活動を積極的に進め、市場の活性化を図りました。利益面では販売価格の低下や、原材料価格の上昇などの圧迫要因があり、販売数量の増加、コストダウン活動や費用の効率化に努めました。

(売上高の内訳)

	当中間連結 会計期間 (百万円)	前中間連結 会計期間 (百万円)	伸長率 (%)
バーソナルケア製品	95,899	91,602	+4.7
ハウスホールド製品	120,611	118,488	+1.8
サニタリーほか製品	57,880	60,611	+4.6
計	274,424	270,731	+1.4

バーソナルケア製品の市場は、販売数量が伸びる中で競争が激しくなりました。このような中、多様化する消費者ニーズに応えるため、シャンプーン・リンソスのカテゴリーでは、プレミアムブランド「アージェンスト」に新しいトリートメント製品を加え、売り上げを伸ばしました。全身洗浄料は競合からの新製品投入が激化しましたが、バイオレハは、蒸留と同じ弱酸性での洗剤を継続してきたことが消費者の支持を得、またハワードウォッシュも好評を受けて、売り上げは伸長しました。以上の結果、バーソナルケア製品の売り上げは前年同期と比べて0.7%ト回りりました。

ハウスホールド製品の市場は、依然としてデフレ環境下で縮小傾向にあり、激しい市場競争が続きました。このような中、当社グループは基幹ブランドの高付加価値化に取り組みました。衣料用洗剤では、「液体アタック」の改良や、柔軟効果がある「ふんわりニユービー」の新発売などもあり、売り上げは伸長しました。また洗剤上剤では、漂白剤、漂白剤、柔軟剤の各分野で新製品、改良品を上出しましたが、価格下落の影響を受け、売り上げは横ばいに推移しました。一方、緑茶の葉茶から取り出した消臭成分を配合した衣料用消臭剤「リセツッシュ」や、手錠に床のワックスがけが出来るフロアワックス剤「クイックルワイパー・ワックスコーティング」を新発売し、消費者に支持され市場の拡大とともに好調に推移しました。以上の結果、ハウスホールド製品の売り上げは前年同期と比べて1.8%ト回りりました。

サニタリーほか製品のうちサニタリー製品では、ペーパー用紙おしつにおいて、基本性能の向上と、ブランド価値の増大を図るため、引き続き製品を改良しました。その結果、販売価格の下落が続いているなかで、売り上げは前年同期を上回りました。生理用品では「ロリエ・エフ」が、若者に消費者の支持を得ており、またパテンティライナー「ロリエ・きれいなスタイル」で市場を活性化し、売り上げを伸ばしました。大人用紙おむつ「リリーフ」も市場の拡大とともに、売り上げを伸ばしています。

ヘルスケア製品では、消費者の健康意識の高まりを受けて、継続使用の拡大に努めてきました。健康機能油の市場で高いシェアを維持している「ユコナ」関連製品の売り上げは、市場への浸透も速い順ばいに推移しました。一方、お茶飲料「ヘルシア」は、烏龍茶を追加発売しましたが、一時期のカフェインブーム沈静により、継続飲用者が集約化された結果、売り上げは減少しました。以上の結果、サニタリーほか製品の売り上げは前年同期と比べて4.6%ト回りりました。

アジア

アジアの市場では、消費者の価値観の変化、競合各社との競争激化が続いており、また流通チャネルも人手チェンジに売り上げが集中してきております。このような環境の中で、当社グループは基幹ブランドへの経営資源の集中を図っています。また、日本を含めたアジア一体運営の構築に向けて取り組みを進めています。なお、ここ数年構造改革に乗り組んだ中国では、成果が現れつつあり、売り上げは伸長しました。アジア全体ではヘアケア製品の売り上げは伸び悩みましたが、スキンケア製品、ハウスホールド製品、生理用品は好調に推移しました。なお、タイで建設を進めておりまじした新工場は、運送移動を開始しております。以上の結果、売り上げは前年同期と比べてほぼ横ばいの0.2%増となりました。

【欧米】

欧米市場では、競合との競争激化の中、当社グループはバーソナルケア製品事業に特化し、製品の高付加価値化を図ってきました。米国の花王ブランドでは、スキンケアブランド「リジャーガンズ」に、高い保湿機能に加え、健康的な小麦色へと肌色を徐々に変える「ナチュラール・グロー」を新発売し、売り上げを大幅に伸ばしました。ヘアケアでは、髪色別の製品提案に他社も参入してきましたが、「ジョン・フリーダ」では美しい赤い髪を守る「ラディアント・レッド」を新発売し、順調に推移しました。またPDS一花王プロフェッショナル・サロン・サマー・サン・シリーズでは、新製品の投入を積極的に行いましたが、横ばいに推移しました。以上の結果、売り上げは前年同期と比べて5.6%増加しました。

(ロ) 化粧品事業

国内プレスエージェンティ化粧品市場は、依然、全体的に縮小傾向にあります。その中で、当社グループは消費者の意識と購買行動、流通チャネルの変化に対応した商品力の強化に取り組みました。百貨店では「エスト・ブランド」をさらに強化する活動を行い、総合スーパーやドラッグストアチャネルでは、昨年度に新発売した「アルブラン」ブランドのカウンセリングを充実させてまいりました。また、「ソフイーナ・ブランド」では「1人の毛穴ケア」および「エッセンス」や「ベリベリ」毛穴ケア「毛穴クチュムス」を新発売しました。さらに他外では本年7月に、高級化粧品ブランドの英国モルトン・ブラウング社を買収しました。お互いの協力を生かしてシナジー効果を発揮し、化粧品事業のグローバルな展開を加速できるものと期待しております。なお、モルトン・ブラウング社は、下半期から連結業績に反映されます。以上の結果、売上高は前年同期と横ばいの39,307百万円（前年同期比△0.1%）、営業利益は、前年同期に対して470百万円減少の3,877百万円となりました。

(ハ) 工業用製品事業

国内においては、引き続き景気は回復基調にあり、企業収益の改善や設備投資の増加が見られるものの、原油価格の高騰が、米田経済はじめ世界経済に影響を及ぼす懸念があります。このような中で、コア分野である油脂、機能材料及びスペシャルケミカルを中心に事業拡大に努めました。その結果、売上高は103.8%に百万円（前年同期比+7.5%。為替の変動の影響を除く実質伸長率+7.1%）となりました。一方、営業利益は、石油化学原料の高騰の影響を受けましたが、高付加価値製品の販売数量増加やコストダウンにより、前年同期を1,448百万円ト回り11,707百万円となりました。

【日本】

国内では、油脂系化学や機能材料事業で、既存品が伸び悩みましたが、一方で、対象業界のさまざまな分野における、多様なニーズに応えた新規開発製品が伸長しました。トナー・トナー・ハイパーや、インクジェットプリンター・インク用色材などのスペシャルケミカル事業は、各製品の専長が顧客に受け入れられ、生産設備対応を進めた結果、当中間連結会計期間も順調に伸長しました。以上の結果、売上高は前年同期を3.7%ト回りしました。

【アジア】

「ヘルシア」及び「フィリピン」で製造している油脂アルコール製品は、製品の安定供給と品質の高さを評価され、また、グローバルに販売に努めた結果、売り上げを増加させました。タイを中心とするアセアン諸国の界面活性剤も順調に推移しました。以上の結果、売上高は前年同期を9.1%ト回りりました。

【欧米】

米国で能力増強投資を行ったトナー・トナー・ハイパー事業は、日本、米国及び欧州の三極でのグローバルな事業運営体制を一層強化し、好調に推移しました。ドイツでは、コンクリート用高機能減水剤が売り上げを伸ばしました。以上の結果、売上高は前年同期と比べて13.9%増加しました。

所在地別セグメントの業績

		売上高		営業利益	
		当中間連結会計期間 (百万円)	前中間連結会計期間 (百万円)	当中間連結会計期間 (百万円)	前中間連結会計期間 (百万円)
北 本		358,695	352,975	5,720	54,913
ア ジ		32,710	50,315	2,395	3,804
米 州		46,102	40,957	5,145	2,731
欧 州		49,646	46,225	3,421	2,534
小 計		507,155	490,473	16,682	63,784
消 去		△21,057	△21,433	△2,623	△713
合 計		483,098	469,039	14,058	63,070

(イ) 日本

国内の会社の売上高は、セグメント間の内部売上高を含めて358,695百万円となり、前年同期を1.6%上回りました。営業利益は、新製品の発売による販売数量の増加やコストダウン活動に努めたものの、販売価格の下落や原料価格の上昇などの影響により、前年同期に比べ1.8%減少し、54,913百万円となりました。

(ロ) アジア

アジア地域の会社の売上高は、セグメント間の内部売上高を含めて32,710百万円となり、前年同期を4.8%上回りました（為替の変動の影響を除く実質伸長率+5.7%）。営業利益は、工業用製品において、マシナリー及びワイリピンで製造している樹脂アルコーン製品が売上増加に寄与したことなどにより、前年同期に比べて135.9%増加し、3,604百万円となりました。

(ハ) 米州

米州の会社の売上高は、セグメント間の内部売上高を含めて46,102百万円となり、前年同期を12.6%上回りました（為替の変動の影響を除く実質伸長率+13.3%）。家庭用製品事業において、グンミ・アム・ヘアケア・グンミ・ドの新製品投入により売上げが増加した一方で、マーケティング活動の費用も増加しました。その結果、営業利益は、前年同期に比べて1.0%増加の2,731百万円となりました。

(ニ) 欧州

欧州の会社の売上高は、セグメント間の内部売上高を含めて49,646百万円となり、前年同期を7.4%上回りました（為替の変動の影響を除く実質伸長率+5.0%）。営業利益は、主にヘアサロンのヘアケア事業での新製品投入の効果が、前年同期に比べて9.8%増加の2,534百万円となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動による収入と、有形固定資産の取得やモルトン・ブラウン社の買収などの投資活動による支出の差額では、19,548百万円の余剰（前年同期は28,100百万円の余剰）となり、自己株式の市場買付や配当金の支払いなどの財務活動による支出を上回り、前連結会計年度末に比べ、5,102百万円増加の75,511百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において営業活動によって得られた資金は、64,695百万円（前年同期は59,130百万円）となりました。税金等調整前中間純利益は62,486百万円（前年同期は63,607百万円）となり、減価償却費は27,610百万円（同27,239百万円）となりました。一方、法人優待の支払いが20,611百万円（前年同期は19,967百万円）であったほか、企業年金基金への拠出による退職給付引当金の減少6,585百万円（同6,265百万円の減少）などの資金の減少がありました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において投資活動に使用された資金は、45,146百万円（前年同期は31,030百万円）となりました。これは主に、国内外の新製品対応の設備投資などによる有形固定資産の取得22,216百万円（前年同期は26,669百万円）や、モルトン・ブラウン社買収に伴う支出31,656百万円があったほか、有価証券と投資有価証券の償還及び売却による収入14,031百万円（同3,553百万円）があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において財務活動の結果使用された資金は、15,412百万円（前年同期は48,496百万円）となりました。これは、配当金の支払い10,945百万円（前年同期は10,071百万円）と自己株式の取得による支出5,517百万円（同41,089百万円）が主なものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当中間連結会計期間の生産実績を事業の価額別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業区分	当中間連結会計期間 (自 平成17年 4月 1日 至 平成17年 9月 30日) (百万円)	前年同期比 (%)
家庭用製品事業	300,832	+4.3
化粧品事業	36,992	+6.0
工業用製品事業	87,170	+6.2
消去	△13,759	
合計	411,235	+3.9

(注) 1. 金額は売価換算量で表示しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 連結会社間の取引が概算で、セグメントごとの生産高を正確に把握することは困難なため、概算値で表示しております。

(2) 受注状況

受注生産は行っておりません。

(3) 販売実績

当中間連結会計期間の販売実績を事業の価額別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業区分	当中間連結会計期間 (自 平成17年 4月 1日 至 平成17年 9月 30日) (百万円)	前年同期比 (%)
家庭用製品事業		
パーソンナルケア製品	95,899	14.7
ハウスホールド製品	120,644	+1.8
サニタリーほか製品	57,880	△4.6
日本計	274,424	+1.4
アジア	26,911	+0.2
欧米	55,265	+5.6
内部売上消去等	△3,499	-
計	353,102	+1.9
化粧品事業		
工業用製品事業		
日本	56,660	13.7
アジア	25,754	19.1
欧米	36,237	113.9
内部売上消去等	△14,810	
計	103,842	+7.5
合計	496,251	+2.8
消去	△13,153	
運送売上高	483,098	+3.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

当中間連結会計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）が対処すべき課題について、重要な変更はありません。

4【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、新たに締結した重要な契約は次のとおりであります。

株式売買契約

当社は、英因新設子会社である花王プレステージャ社を通じて、スキングケア、ヘアケア、バス・ボディケア等の製品の製造・販売を行う高松化粧品ブランドのモルトン・ブラウン社の子会社である英国の投資会社ブリッジポイント・キャピタル社から取得する契約を平成17年7月15日に締結しました。

5【研究開発活動】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、消費者・顧客の立場にたって、心をこめた“よきモノづくり”を行い、世界の人々の喜びと満足のある、豊かな生活文化の実現に貢献するため、基礎技術の深化に努め、積極的な研究開発活動を行っております。

現在、当社では商品開発研究所（7研究所）と基礎技術研究所（7研究所）において、それぞれの機能を最大限に發揮し、海外の研究所とも密接に連携を取りながら一体運営しております。グループ全体で、約2,000名が研究開発業務に携わっております。

当中間連結会計期間におけるグループ全体の研究開発費は、19,965百万円（売上高比4.1%）であり、主な成果は、下記のとおりであります。

(1) 家庭用製品事業

〔山本〕

パーソナルケア製品では、新開発の蒸気が出る温熱シートを応用し、約40℃の体感温度が5時間以上続き、筋内の痛みやこり、肩凝りの不調、疲労回復に、温める医療機器「めぐリズム 蒸気温熱パナー」（一般医療機器）を開発しました。また、ヘアスタイリング剤の「リバーゼ」より、浸透美髪エッセンス（補修スタイリング成分）を配合し、髪の状態を整えながらスタイリングすることで、ツヤのある美しいヘアスタイルが実現する「リバーゼ サブライ」シリーズを開発しました。

ハウスホールド製品では、緑茶から取り出した消臭成分がしっかりと高い消臭効果を実現し、除菌のできる新しい衣類・布製品用消臭剤「リセッシュ」を開発しました。また、すていた瞬間に、汚れ落ちを指示と音で“キョキュウ”と実感できる食器用洗剤「ファミリー キョキュウ」に、クエン酸の効果で食器からシワまでびかびかに洗える新食器用洗剤「ファミリー キョキュウ クエン酸効果」を追加開発しました。サニタリー製品では、元気に歩く、またはもうすぐ歩ける赤ちゃんのために、“歩きやすい”ことに注目したはじめてのパンツ型紙おむつ「メリーバパンツ のびのびウオーカー」を、また、デリケートな肌のために、通気性と肌ざわりにこだわったテープ型紙おむつ「メリーバ」さらさらエアースルーを開発しました。生理用品では、生理時に女性を抱える肌ストレスからの開放を口指した生理用アプキーン「ロリエ エフ」に加えて、生理期間だけでなく、毎日のデリケートエリアの肌環境を快適に保つためのバンディナイターとして、エフ独自の表素材（ドファイバー）を採用した「ロリエ エフ バンディナイター」を開発しました。ペット関連製品では、体の中で代謝されやすい腸胃ケアシルグリー（DAG）を採用し、体脂肪から愛犬の健康を考えたいペットフード「Healthlab ヘルスラブ」を開発しました。

〔海外〕

ヘアケア製品では、花王の美髪技術を、欧米の ジョン・フリーダブランド、アジアの ショフォネブランドの製品への応用展開を進めています。アジアのスキンケア製品では、肌刺激低減技術の応用開発に取り組みしています。米国では、肌を淡い小変色に染める機能を付与した新しいボディケア製品「リチャチュアル・グロー」を花王ブランドから発売しました。

当事業に係る研究開発費は、13,465百万円です。

(2) 化粧品事業

長年培ってきた皮膚科学技術、素材関連研究、刺激低減研究の更なる深化及び応用を進めています。

はおの毛穴の開きが気になる大人の肌のための美容液「ソフィーナ 大人の毛穴ケア ひきしめエッセンス」を開発しました。また、敏感な肌の肌質に悩む若い肌には、新しい美容液「ベリベリベリ 毛穴ケア パーフェクトハート」を開発しました。

当事業に係る研究開発費は、2,418百万円です。

(3) 工業用製品事業

油脂、界面活性剤、機能性高分子等における研究開発の成果をさらに深化させ、産業界の発展に寄与する工業用製品の研究開発を行っております。

情報材料及び機能材料の分野では、顧客のニーズにマッチした、高性能ポリエーテル系トナー及びインクジェットプリンターインク用色材、優れた特性をもつ電子部品用洗剤、コンクリート用高性能減水剤などの研究開発をさらに進めました。

当事業に係る研究開発費は、4,051百万円です。

第3【設備の状況】

1【主要な設備の状況】

当中間連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

2【設備の新設、除却等の計画】

当中間連結会計年度末に計画中であった重要な設備の新設、撤去のうち完了したものは、次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	設備の内容	金額（百万円）	完了年月
当社和歌山工場ほか	和歌山県和歌山市ほか	家庭用製品生産設備 増強及び合理化	2,005	平成17年4月～9月
当社親島工場及び和歌山工場ほか	茨城県神栖市及び和歌山県和歌山市ほか	工業用製品生産設備 増強及び合理化	2,158	平成17年4月～9月
当社熊本研究所ほか	熊本県芳賀郡市口町ほか	研究開発施設拡充	888	平成17年4月～9月
当社川崎ロジスティクスセンターほか	川崎市川崎区ほか	家庭用製品物流設備 拡充及び整備	983	平成17年4月～9月
Kao Industrial (Thailand) Co., Ltd. 新工場	タイ（バンコク近郊）	家庭用製品及び工業用製品生産設備、研究開発施設	7,670	平成17年3月～6月

〔注〕金額には、消費税等は含まれておりません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

平成17年9月30日現在	
種別	会社が発行する株式の総数(株)
普通株式	1,000,000,000
計	1,000,000,000

②【発行済株式】

種別	中間会計期間末現在発行数 (平成17年9月30日)(株)	提出口現在発行数 (株) (平成17年11月15日)	上場証券取引所名又は 登録証券業協会名	内容
普通株式	549,443,701	549,443,701	東京証券取引所 (市場第一部)	—
計	549,443,701	549,443,701		

(2)【新株予約権等の状況】

前法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成14年6月27日定時株主総会決議

	中間会計期間末現在 (平成17年9月30日)	提出日の前月末現在 (平成17年10月31日)
新株予約権の数(個)	466	466
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	466,000	466,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	2,955	同左
新株予約権の行使期間	自 平成16年7月1日 至 平成21年6月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式 の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,955 資本組入額 1,478	同左
新株予約権の行使の条件	各新株予約権の一部行使は、 その目的たる株式の数が当社 の1単元の株式数の整数倍と なる場合に限り、これを行う ことができる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには、 当社取締役会の承認を要す る。	同左

平成15年6月27日定時株主総会決議

	中間会計期間末現在 (平成17年9月30日)	提出日の前月末現在 (平成17年10月31日)
新株予約権の数(個)	981	956
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	981,000	956,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	2,372	同左
新株予約権の行使期間	自 平成17年7月1日 至 平成22年6月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式 の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,372 資本組入額 1,186	同左
新株予約権の行使の条件	各新株予約権の一部行使は、 その目的たる株式の数が当社 の1単元の株式数の整数倍と なる場合に限り、これを行う ことができる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには、 当社取締役会の承認を要す る。	同左

平成16年6月29日定時株主総会決議

	中間会計期間末現在 (平成17年9月30日)	提出日の前月末現在 (平成17年10月31日)
新株予約権の数(個)	1,151	1,151
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	1,151,000	1,151,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	2,695	同左
新株予約権の行使期間	自 平成18年7月1日 至 平成23年6月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式 の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,695 資本組入額 1,348	同左
新株予約権の行使の条件	各新株予約権の一部行使は、 その目的たる株式の数が当社 の1単元の株式数の整数倍と なる場合に限り、これを行う ことができる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには、 当社取締役会の承認を要す る。	同左

(3) 【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	窓口貸付式総 延増枚数 (千株)	窓口貸付式 総数高 (千株)	資本金増減 額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成7年9月30日	-	519,413	-	85,424	-	108,868

平戌17年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
モックスレイ・アンド・カンパニー (常任代理人 株式会社三井住友銀行)	270 PARK AVENUE NEW YORK, NY 10017 2070 U. S. A. (東京都千代田区丸の内1-3-2)	28,793	5.24
ステート ストリート バンク アン ド トラスト カンパニー 505103 (常任代理人 株式会社みずほコーポ レート銀行)	P. O. BOX 351 BOSTON, MA 02101 U. S. A. (東京都中央区日本橋兜町6-7)	27,985	5.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	25,433	4.62
日本マスタートラスト信託銀行株式会 社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	20,700	3.76
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1-2-1	17,402	3.16
全国共済農業協同組合連合会	東京都千代田区平河町2-7-9	16,246	2.95
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	15,200	2.76
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋1-9-1	12,735	2.31
メロン バンク エヌエー・アズ エ ージェント フォー イッツ クライ アント メロン オムニバス エン ス ペンション (常任代理人 香港上海銀行)	ONE BOSTON PLACE BOSTON, MA 02108 U. S. A. (東京都中央区日本橋3-11-1)	12,176	2.21
ピー・エヌ・ビー・パリバ・セキユリ ファイナズ (ジャパン) リミテッド (ピーエヌビー・パリバ証券会社)	東京都千代田区人手町1-7-2	8,898	1.61
計		185,569	33.77

2. モルガン・スタンレー・ジャパン・リミテッドから平成17年7月12日付で大量保有報告書に係る変更報告書

なお、同変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株数等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
モルガン・スタンレー・ジャ パン、リミテッドほか1社	カイヤン諸島、グランドカイマン、ジュー ズウィグ、サウスケイマン、スエード、 ユタランドほかの各証券会社等は、 ユタランドほかの各証券会社等は、	34,347	6.25

期票 (発行年月日)	中間会計期間末現在 (平成17年9月30日)	提出日の前月末現在 (平成17年10月31日)
第7回無担保換社債 (平成8年12月13日)	残高 (百万円) 1,068 換価価格 (円/株) 1,433.00 資本組入額 (円/株) 667	残高 (百万円) 1,004 換価価格 (円/株) 1,343.00 資本組入額 (円/株) 667

(5) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成17年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (株)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,836,000	—	—
完全議決権株式 (その他) (注)	普通株式 538,221,000	538,184	—
単元未満株式	普通株式 6,386,701	—	1 単元 (1,000株) 未満 の株式
発行済株式総数	549,413,701	—	—
総株主の議決権	—	538,184	—

(注) 完全議決権株式 (その他) 1 の株式数の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が37,000株含まれておりますが、議決権の数 (その他) 1 の欄には同機構名義の議決権37個は含まれておりません。

② 【自己株式等】

平成17年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(自己保有株式) 花王株式会社	東京都中央区日本橋 茅場町 1-14-10	4,836,000	—	4,836,000	0.88
計	—	4,836,000	—	4,836,000	0.88

2 【株価の推移】

【当該中間会計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成17年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高 (円)	2,490	2,550	2,650	2,730	2,685	2,990
最低 (円)	2,300	2,400	2,490	2,550	2,540	2,660

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所 (市場第一部) におけるものであります。

3 【役員の状況】

前中々年度の有価証券報告書の提出日後、当半期報告書の提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

役員の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
代表取締役 常務執行役員 家庭品事業部門統括 消費者相談センター担当 花王プロフェッショナル・サービ ス担当	代表取締役 常務執行役員 家庭品事業部門統括 花王プロフェッショナル・サービ ス担当	香川 尊彦	平成17年10月1日
取締役 執行役員 化粧品・コンプレックス部門統括 コーポレートコミュニケーション 部門統括	取締役 執行役員 化粧品・コンプレックス部門統括 コーポレートコミュニケーション 部門統括	中川 俊一	平成17年10月1日
取締役 執行役員 サニタリー事業本部長 MK開発センター長	取締役 執行役員 サニタリー事業本部長 サニタリー事業本部長	神田 博至	平成17年10月1日

第5【経理の状況】

1. 中間連結財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の中間連結財務諸表は、「中間連結財務諸表の用語、様式及び作成方法」に関する規則（平成11年人蔵省令第24号。以下「中間連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法」に関する規則（昭和52年人蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、証券取引法第44条の2の規定に基づき、前中間連結会計期間（自平成16年4月1日 至平成16年9月30日）及び当中間連結会計期間（自平成17年4月1日 至平成17年9月30日）の中間連結財務諸表並びに前中間会計期間（自平成16年4月1日 至平成16年9月30日）及び当中間会計期間（自平成17年4月1日 至平成17年9月30日）の中間財務諸表について、監査法人トーマツにより中間監査を受けております。

1【中間連結財務諸表等】

(1) 【中間連結財務諸表】

① 【中間連結貸借対照表】

区分	注記 番号	前中間連結会計期間末 (平成16年9月30日)		当中間連結会計期間末 (平成17年9月30日)		前連結会計年度の 要約損益計算書対照表 (平成17年3月31日)		
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
(資産の部)								
Ⅰ 流動資産								
1. 現金及び預金	※1		53,457	54,141		32,026		
2. 受取手形及び売掛金	※1		101,833	103,947		103,586		
3. 有価証券			38,563	24,370		40,383		
4. たな卸資産			79,022	89,151		81,781		
5. 繰延税金資産			13,281	14,045		14,559		
6. その他			14,763	19,098		18,985		
7. 貸倒引当金			△1,811	△1,972		△2,141		
流動資産合計			299,100	42.0	304,782	42.0	289,180	42.0
Ⅱ 固定資産								
(1) 有形固定資産								
1. 建物及び構築物		288,495		295,299		290,817		
減価償却累計額		196,763		205,392		200,930	89.916	
2. 機械装置及び運搬具		589,018		592,884		587,132		
減価償却累計額		506,618		512,015		506,988	80.144	
3. 工具、器具及び備品		63,490		66,048		62,856		
減価償却累計額		54,819		55,229		53,617	9.239	
4. 土地			18,340		18,083		18,400	
5. 建設仮勘定			264,676	37.1	251,833	36.0	260,223	37.8
有形固定資産合計								
(2) 無形固定資産								
1. 営業権			29,045		57,346		26,010	
2. 商標権			47,900		40,723		44,348	
3. その他			16,881		14,610		15,863	
無形固定資産合計			93,827	13.2	112,580	15.5	86,222	12.5
(3) 投資その他の資産								
1. 投資有価証券			22,880		16,811		22,437	
2. 長期貸付金			627		285		275	
3. 繰延税金資産			18,212		14,680		16,924	
4. その他			13,724		15,420		13,788	
5. 貸倒引当金			△210		△173		△209	
投資その他の資産合計			55,236	7.7	47,023	6.5	53,217	7.7
固定資産合計			413,739	58.0	421,437	58.0	399,662	58.0
繰延資産			79	0.0	121	0.0	130	0.0
資産合計			712,918	100.0	726,341	100.0	688,973	100.0

区分		前中間連結会計期間末 (平成16年9月30日)		当中間連結会計期間末 (平成17年9月30日)		前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成17年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(負債の部)							
I 流動負債							
1. 支払手形及び買掛金		74,460		76,192		70,993	
2. 短期借入金	※1	19,720		19,739		18,604	
3. のちのちの借入金				1,068		2,596	
4. の長期借入金	※1	85		711		91	
5. 未払金		21,725		20,017		19,139	
6. 未払費用		65,382		67,330		63,233	
7. 未払法人税等		21,262		20,087		19,665	
8. その他		16,607		16,512		17,217	
流動負債合計		219,244	30.8	221,660	30.5	211,541	30.7
II 固定負債							
1. 繰上償還		7,874		—		—	
2. 長期借入金	※1	1,423		735		1,426	
3. 退職給付引当金		16,857		3,677		10,211	
4. 役員退職慰労引当金		180		180		180	
5. その他		9,627		13,269		9,960	
固定負債合計		35,962	5.0	17,862	2.5	21,768	3.1
負債合計		255,207	35.8	239,522	33.0	233,310	33.8
(少数株主持分)							
少数株主持分		7,692	1.1	7,533	1.0	7,413	1.1
(資本の部)							
I 資本金		85,424	12.0	85,424	11.8	85,424	12.4
II 資本剰余金		109,561	15.3	109,561	15.1	109,561	15.9
III 利益剰余金		344,310	48.3	327,872	45.1	299,346	43.5
IV その他評価差額金		3,438	0.5	4,850	0.7	3,533	0.5
V 為替換算調整勘定		△39,091	△5.5	△36,011	△5.0	△39,765	△5.8
VI 自己株式		△53,624	△7.5	△12,381	△1.7	△9,350	△1.4
資本合計		450,018	63.1	479,285	66.0	418,219	65.1
負債、少数株主持分 及び資本合計		712,918	100.0	726,341	100.0	688,973	100.0

② 【中間連結損益計算書】

区分	注記 番号	前中間連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)		当中間連結会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)		前連結会計年度の 要約連結損益計算書 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)
I 売上高		469,039	100.0	483,068	100.0	936,851	100.0
II 売上原価		198,854	42.4	210,722	43.6	404,803	43.2
売上総利益		270,185	57.6	272,376	56.4	532,047	56.8
III 販売費及び一般管理費	※1	207,721	44.3	209,305	43.3	410,668	43.8
営業利益		62,464	13.3	63,070	13.1	121,379	13.0
IV 営業外収益							
1. 受取利息		335		453		701	
2. 受取配当金		102		63		201	
3. 持分法による投資利 益		1,018		—		1,216	
4. 受取経営指導料		47		219		391	
5. 為替差益		—		—		—	
6. その他		1,456	0.7	1,231	0.4	2,997	0.6
営業外費用							
1. 支払利息		475		489		933	
2. 持分法による投資損 失		—		173		—	
3. 為替差損		—		504		—	
4. その他		328	0.2	254	0.3	809	0.2
経常利益		64,620	13.8	63,638	13.2	125,345	13.4
特別利益							
1. 固定資産売却利益	※2	205		161		353	
2. 投資有価証券売却利益		308		74		1,183	
3. 貸倒引当金戻入額		100		—		—	
4. その他		49	0.1	35	0.0	76	0.2
特別損失							
1. 固定資産除売却損	※3	1,329		1,009		4,043	
2. その他	※4	337	0.3	432	0.3	3,261	0.8
税金等調整前中間 (当期) 純利益		63,607	13.6	62,486	12.9	119,653	12.8
法人税、住民税及び 事業税		21,705		20,539		42,845	
法人税等調整額		3,708	5.4	2,831	4.8	4,272	5.1
少数株主利益(減損)		433	0.1	638	0.1	355	0.0
中間(当期) 純利益		37,761	8.1	38,486	8.0	72,180	7.7

③【中間連結剰余金計算書】

区分	注記 番号	前中間連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)		当中間連結会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)		前連結会計年度の 連結剰余金計算書 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)		
(資本剰余金の部)							
I 資本剰余金前期首残高			108,888		109,561		108,888
II 資本剰余金増加高							
株式交換による増加高		672	672	—	—	672	672
III 資本剰余金中間期末 (期末) 残高			109,561		109,561		109,561
(利益剰余金の部)							
I 利益剰余金前期首残高			399,889		299,345		399,889
II 利益剰余金増加高							
1. 中間 (当期) 純利益		37,761		38,486		72,180	
2. 連結会社等の増加に よる増加高		—	37,761	1,817	40,334	42	72,222
III 利益剰余金減少高							
1. 配当金		8,747		10,354		19,269	
2. 役員賞与		122		91		122	
3. 自己株式消却額		63,760		—		127,775	
4. 自己株式処分差損		20,719	93,340	1,361	11,808	25,598	172,766
IV 利益剰余金中間期末 (期末) 残高			344,310		327,872		299,345

④【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

区分	注記 番号	前中間連結会計期間 (自 平成16年9月30日 至 平成17年4月1日)	当中間連結会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	前連結会計年度の キャッシュ・フロー計算書 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー		金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)
税金等調整前中間 (当期) 純利益		63,607	62,486	119,653
減価償却費		27,239	27,640	56,793
固定資産売却損益 (利益: △)		1,133	848	3,689
受取利息及び受取配当金		△437	△516	△903
支払利息		475	469	933
為替差損益 (差益: △)		236	861	△239
繰分法による投資利益 (利益: △)		△1,018	173	△1,216
売上債権の増減額 (増加: △)		△4,310	△602	△5,922
たな卸資産の増減額 (増加: △)		△7,468	△5,277	△9,781
仕入債権の増減額 (減少: △)		5,742	4,019	2,636
退職給付引当金の増減額 (減少: △)		△6,265	△6,585	△13,009
その他		△7	396	△1,487
小計		78,928	83,916	151,146
利息及び配当金の受取額		630	1,856	1,956
利息の支払額		△460	△465	△912
法人税等の支払額		△19,967	△20,611	△42,623
営業活動によるキャッシュ・フロー		59,130	64,695	109,587
II 投資活動によるキャッシュ・フロー				
有価証券の取得による支出		△5,999	△2,999	△11,999
有価証券の償還による収入		3,057	6,000	9,171
有形固定資産の取得による支出		△26,669	△22,216	△50,771
有形固定資産の売却による収入		546	864	2,434
無形固定資産の取得による支出		△2,812	△1,380	△3,979
投資有価証券の取得による支出		△13	△17	△26
投資有価証券の償還及び売却による収入		496	8,031	1,691
新規連結子会社買収に伴う支出		—	△31,656	—
長期貸付による支出		△600	△428	△1,131
その他資産の増減額 (増加: △)		964	△1,144	201
投資活動によるキャッシュ・フロー		△31,030	△45,146	△54,407
III 財務活動によるキャッシュ・フロー				
短期借入金の純増減額 (減少: △)		2,249	813	402
長期借入金による収入		—	85	78
長期借入金の返済による支出		△32	△122	△172
少数株主の増資引受による収入		162	—	837
自己株式の取得による支出		△41,089	△5,517	△71,632
配当金の支払額		△8,739	△10,354	△19,259
少数株主への配当金の支払額		△1,332	△590	△1,332
その他		385	273	430
財務活動によるキャッシュ・フロー		△48,496	△45,113	△90,657
現金及び現金同等物に係る換算差額		△848	1,055	△1,246
V 現金及び現金同等物の増減額 (減少: △)		△21,213	5,190	△36,742
VI 現金及び現金同等物の期首残高		107,151	70,409	107,151
VII 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加		—	760	0
VIII 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少		—	△848	—
IX 現金及び現金同等物の中間期末 (期末) 残高	※1	85,907	75,511	70,409

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

[illegible]

前中間連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	2. 持分法適用非連結子会社……3社 会社名： 花王商事㈱、ニエー製紙㈱、 花王レジスアイクス㈱	当中間連結会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	2. 持分法の適用に関する事項 会社名： 花王商事㈱、ニエー製紙㈱、 花王レジスアイクス㈱、 その他7社
前中間連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	2. 持分法の適用に関する事項 会社名： 花王商事㈱、ニエー製紙㈱、 花王レジスアイクス㈱	当中間連結会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	2. 持分法の適用に関する事項 会社名： 花王商事㈱、ニエー製紙㈱、 花王レジスアイクス㈱、 その他7社

前年度連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	当中間連結基準に関する事項 (1) 重要な資産の取得基準及び評価方法 (2) 有価証券 満期保有目的の債券 同左 その他有価証券 時価のあるもの 同左	前年度連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	当中間連結基準に関する事項 (1) 重要な資産の取得基準及び評価方法 (2) 有価証券 満期保有目的の債券 同左 その他有価証券 時価のあるもの 同左
前年度連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	当中間連結基準に関する事項 (1) 重要な資産の取得基準及び評価方法 (2) 有価証券 満期保有目的の債券 同左 その他有価証券 時価のあるもの 同左	前年度連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	当中間連結基準に関する事項 (1) 重要な資産の取得基準及び評価方法 (2) 有価証券 満期保有目的の債券 同左 その他有価証券 時価のあるもの 同左

前中間連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成17年9月30日 至 平成17年9月30日)	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)
(3) 重要な引当金の計上基準 ① 貸倒引当金 当社及び国内連結子会社は、一般債権者については貸倒損失率による計算額を、貸倒懸念債権等特定債権の債権にについては個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を上しております。また、在外連結子会社は、主として特定の債権に付いて回収不能見込額を上しております。	(3) 重要な引当金の計上基準 ① 貸倒引当金 当社及び国内連結子会社は、売上債権、買付け金等の貸倒損失に備えるため、貸倒債権については貸倒損失率による計算額を、貸倒懸念債権等特定債権の債権にについては個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を上しております。また、在外連結子会社は、主として特定の債権に付いて回収不能見込額を上しております。	(3) 重要な引当金の計上基準 ① 貸倒引当金 同左
(2) 退職給付引当金 当社及び主要な連結子会社において、従業員は、従業員の退職給付に備えるため、当中間連結会計期間末における退職給付義務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 会計基準変更時差異についてでは、15年による均等増額費用処理しております。 退去勤務報酬金は、主としてその発生時の従業員の平均存続期間以内の一定の年数（15年）による定額法により費用処理しております。 数理計算上の差異は、主として各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法より、それぞれ発生連結会計年度から費用処理しております。	(2) 退職給付引当金 同左 ② 負債超過額引当金 役員の退職給当金の支給に備えたため、当社内訳に基づく要支給見償額を上しておりますが、平成17年7月以降繰越の引当金を停止しており、まず、仮いまして、当中間連結会計期間末の負債は、現行繰越金が平成16年6月以前に確保していた額に比べて引当計上した額であります。	(2) 退職給付引当金 同左 ③ 役員退職給付引当金 役員の退職給当金の支給に備えたため、当社内訳に基づく要支給見償額を上しておりますが、平成13年7月以降繰越の引当金を停止しており、まず、仮いまして、当中間連結会計年度末の負債は、現行繰越金が平成13年6月以前に確保していた額に比べて引当計上した額であります。

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更

前中間連結決算期間 (自 平成10年4月1日 至 平成10年9月10日)	当中間連結決算期間 (自 平成10年9月10日 至 平成11年4月1日)	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)
(固定資産の減損に係る会計処理) 固定資産の減損に係る会計基準（「固定資産の減損に係る会計基準の認定に関する意見書」）（金融会計連合会 平成10年8月9日発）及び「固定資産の減損に係る会計基準の運用指針」（金融会計連合会運用指針第6号）の適用期日（平成16年10月31日）に及ぶ平成16年4月1日及び平成16年3月31日に及ぶ前連結会計年度に係る連結貸借対照表から適用したことになったことには、当連結会計年度から同認定基準及び同運用指針を適用しており、これにより、税金等調整前当期純利益は、前連結会計年度減少しております。セグメント別では、なお、減損損失累計額に反映しており、なお、減損損失累計額については、改正後の連結貸借対照表規則に基づき各資産の金額から直価除除しております。		
(固定資産の減損に係る会計処理) 固定資産の減損に係る会計基準（「固定資産の減損に係る会計基準の認定に関する意見書」）（金融会計連合会 平成10年8月9日発）及び「固定資産の減損に係る会計基準の運用指針」（金融会計連合会運用指針第6号）の適用期日（平成16年10月31日）に及ぶ平成15年4月1日及び平成15年3月31日に及ぶ前連結会計年度に係る連結貸借対照表から適用することになったことには、当連結会計年度から同認定基準及び同運用指針を適用しており、これにより、税金等調整前当中間連結利益1402万円減少しております。なお、減損損失は、連結子会社の連結の上座に限るものであり、特別損失のその他に含めております。		

表示方法の変更

前期中間連結会計期間 （自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日）	
当中間連結会計期間 （自 平成17年4月1日 至 平成17年9月20日）	《中間連結損益計算書》 「受取経費留保料」は、往來・買入外債の「その他」に含めて表示しておりますが、営業外収益の総額の100分の10を超えたため区分配置しております。 なお、前期中間連結会計期間における「受取経費留保料」の金額は196百万円でありです。

追加情報

前中間連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)
(法人事業報告における外部関係機関等部分の連結損益計算書上の表示方法) 実務対応報告第12号「法人事業報告における外部関係機関等部分の損益計算書上の表示方法」の文書上の取扱い(企業会計基準委員 平成16年2月13日)が公称されたことに伴い、当中間連結会計年度から同文書対応報告に準じ、法人事業報告の付加価値項目及び引当金に「当年度の変動費及び一般管理費」として処理しております。	(法人事業報告における外部関係機関等部分の連結損益計算書上の表示方法) 実務対応報告第12号「法人事業報告における外部関係機関等部分の損益計算書上の表示方法」の文書上の取扱い(企業会計基準委員 平成16年2月13日)が公称されたことに伴い、当連結会計年度から同文書対応報告に準じ、法人事業報告の付加価値項目及び引当金に「当年度の変動費及び一般管理費」として処理しております。	(法人事業報告における外部関係機関等部分の連結損益計算書上の表示方法) 実務対応報告第12号「法人事業報告における外部関係機関等部分の損益計算書上の表示方法」の文書上の取扱い(企業会計基準委員 平成16年2月13日)が公称されたことに伴い、当連結会計年度から同文書対応報告に準じ、法人事業報告の付加価値項目及び引当金に「当年度の変動費及び一般管理費」として処理しております。

当中間連結会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	前中間連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)
(4) 重要な外資性の資産又は負債の本邦価値への換算の基準 外資性の有形資産は、連結決算日の外資性資産相場により円換に換算し、換算差額は利益として処理しております。 なお、在外子会社等の資産及び負債は、中間決算日の通貨為替相場により円換に換算し、換算差額は当期平均相場により円換に換算し、換算差額は少数株主株主分及び資本の額における為替換算調整勘定に含めて計上しております。 (5) 重要なリース取引の処理方法 同左	(4) 重要な外資性の資産又は負債の本邦価値への換算の基準 同左 (5) 重要なリース取引の処理方法 同左	(4) 重要な外資性の資産又は負債の本邦価値への換算の基準 外資性の有形資産は、連結決算日の外資性資産相場により円換に換算し、換算差額は利益として処理しております。 なお、在外子会社等の資産及び負債は、中間決算日の通貨為替相場により円換に換算し、換算差額は当期平均相場により円換に換算し、換算差額は少数株主株主分及び資本の額における為替換算調整勘定に含めて計上しております。 (5) 重要なリース取引の処理方法 同左
(6) 重要なヘッジ会計の方法 同左 (7) ヘッジ会計の方法 同左	(6) 重要なヘッジ会計の方法 同左 (7) ヘッジ会計の方法 同左	(6) 重要なヘッジ会計の方法 同左 (7) ヘッジ会計の方法 同左
(7) その他他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左	(7) その他他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左	(7) その他他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左
5. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 同左	5. 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 同左	5. 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 同左

前期中間連結会計期間末 (平成16年9月30日)	当中間連結会計期間末 (平成17年9月30日)	前期中間連結会計期間末 (平成16年3月31日)
※1. 期限に準じている資産の額 (億円)	※1. 期限に準じている資産の額 (億円)	※1. 期限に準じている資産の額 (億円)
現金 316 有価証券資産等 414 計 661 上記に対応する債務	現金 317 有価証券資産等 901 計 1,118 上記に対応する債務	現金 332 有価証券資産等 970 計 1,302 上記に対応する債務
短期借入金 149 一年以内に返済予定の 長期借入金 86 長期借入金 128 計 363	短期借入金 395 長期借入金 43 計 439	短期借入金 563 一年以内に返済予定の 長期借入金 91 長期借入金 45 計 701
2. 保証債務 関連会社及び従業員等の金融機関ほか からの借入金等に対する債務保証は次 のとおりであります。	2. 保証債務 関連会社及び従業員等の金融機関ほか からの借入金等に対する債務保証は次 のとおりであります。	2. 保証債務 関連会社及び従業員等の金融機関ほか からの借入金等に対する債務保証は次 のとおりであります。
European Distribution Service GmbH 従業員等 計 2,341 1,484 3,729	European Distribution Service GmbH 従業員等 計 2,286 1,171 3,457	European Distribution Service GmbH 従業員等 計 2,285 1,586 3,872

前中間決算計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	当中間決算計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	前中間決算計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月31日)																																				
※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。 <table> <tr><td>百万円</td><td></td></tr> <tr><td>荷造運賃</td><td>25,167</td></tr> <tr><td>広告宣伝費</td><td>44,720</td></tr> <tr><td>総研費及び取組費</td><td>17,649</td></tr> <tr><td>給料手当・賞与</td><td>34,430</td></tr> <tr><td>研究開発費</td><td>19,818</td></tr> </table>	百万円		荷造運賃	25,167	広告宣伝費	44,720	総研費及び取組費	17,649	給料手当・賞与	34,430	研究開発費	19,818	※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。 <table> <tr><td>百万円</td><td></td></tr> <tr><td>荷造運賃</td><td>25,813</td></tr> <tr><td>広告宣伝費</td><td>42,984</td></tr> <tr><td>総研費及び取組費</td><td>19,271</td></tr> <tr><td>給料手当・賞与</td><td>35,675</td></tr> <tr><td>研究開発費</td><td>19,965</td></tr> </table>	百万円		荷造運賃	25,813	広告宣伝費	42,984	総研費及び取組費	19,271	給料手当・賞与	35,675	研究開発費	19,965	※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。 <table> <tr><td>百万円</td><td></td></tr> <tr><td>荷造運賃</td><td>50,282</td></tr> <tr><td>広告宣伝費</td><td>84,157</td></tr> <tr><td>総研費及び取組費</td><td>36,729</td></tr> <tr><td>給料手当・賞与</td><td>68,522</td></tr> <tr><td>研究開発費</td><td>29,763</td></tr> </table>	百万円		荷造運賃	50,282	広告宣伝費	84,157	総研費及び取組費	36,729	給料手当・賞与	68,522	研究開発費	29,763
百万円																																						
荷造運賃	25,167																																					
広告宣伝費	44,720																																					
総研費及び取組費	17,649																																					
給料手当・賞与	34,430																																					
研究開発費	19,818																																					
百万円																																						
荷造運賃	25,813																																					
広告宣伝費	42,984																																					
総研費及び取組費	19,271																																					
給料手当・賞与	35,675																																					
研究開発費	19,965																																					
百万円																																						
荷造運賃	50,282																																					
広告宣伝費	84,157																																					
総研費及び取組費	36,729																																					
給料手当・賞与	68,522																																					
研究開発費	29,763																																					
※2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 <table> <tr><td>百万円</td><td></td></tr> <tr><td>建物及び構築物</td><td>138</td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>52</td></tr> <tr><td>その他</td><td>15</td></tr> </table>	百万円		建物及び構築物	138	機械装置及び運搬具	52	その他	15	※2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 <table> <tr><td>百万円</td><td></td></tr> <tr><td>建物及び構築物</td><td>138</td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>52</td></tr> <tr><td>その他</td><td>15</td></tr> </table>	百万円		建物及び構築物	138	機械装置及び運搬具	52	その他	15	※2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 <table> <tr><td>百万円</td><td></td></tr> <tr><td>建物及び構築物</td><td>188</td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>114</td></tr> <tr><td>その他</td><td>50</td></tr> </table>	百万円		建物及び構築物	188	機械装置及び運搬具	114	その他	50												
百万円																																						
建物及び構築物	138																																					
機械装置及び運搬具	52																																					
その他	15																																					
百万円																																						
建物及び構築物	138																																					
機械装置及び運搬具	52																																					
その他	15																																					
百万円																																						
建物及び構築物	188																																					
機械装置及び運搬具	114																																					
その他	50																																					
※3. 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。 <table> <tr><td>百万円</td><td></td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>618</td></tr> <tr><td>建物及び構築物</td><td>508</td></tr> <tr><td>その他</td><td>212</td></tr> </table>	百万円		機械装置及び運搬具	618	建物及び構築物	508	その他	212	※3. 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。 <table> <tr><td>百万円</td><td></td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>516</td></tr> <tr><td>建物及び構築物</td><td>292</td></tr> <tr><td>有形固定資産その他</td><td>202</td></tr> </table>	百万円		機械装置及び運搬具	516	建物及び構築物	292	有形固定資産その他	202	※3. 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。 <table> <tr><td>百万円</td><td></td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>1,350</td></tr> <tr><td>建物及び構築物</td><td>893</td></tr> <tr><td>土地</td><td>82.5</td></tr> <tr><td>無形固定資産 (ソフトウエア)</td><td>820</td></tr> <tr><td>その他</td><td>153</td></tr> </table>	百万円		機械装置及び運搬具	1,350	建物及び構築物	893	土地	82.5	無形固定資産 (ソフトウエア)	820	その他	153								
百万円																																						
機械装置及び運搬具	618																																					
建物及び構築物	508																																					
その他	212																																					
百万円																																						
機械装置及び運搬具	516																																					
建物及び構築物	292																																					
有形固定資産その他	202																																					
百万円																																						
機械装置及び運搬具	1,350																																					
建物及び構築物	893																																					
土地	82.5																																					
無形固定資産 (ソフトウエア)	820																																					
その他	153																																					
※4. 減損損失の内訳は次のとおりであります。 <table> <tr><td>百万円</td><td></td></tr> <tr><td>減損損失</td><td>287</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td>2,003</td></tr> <tr><td>計</td><td>2,291</td></tr> </table>	百万円		減損損失	287	減損損失	2,003	計	2,291	※4. 減損損失の内訳は次のとおりであります。 <table> <tr><td>百万円</td><td></td></tr> <tr><td>減損損失</td><td>287</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td>2,003</td></tr> <tr><td>計</td><td>2,291</td></tr> </table>	百万円		減損損失	287	減損損失	2,003	計	2,291	※4. 減損損失の内訳は次のとおりであります。 <table> <tr><td>百万円</td><td></td></tr> <tr><td>減損損失</td><td>287</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td>2,003</td></tr> <tr><td>計</td><td>2,291</td></tr> </table>	百万円		減損損失	287	減損損失	2,003	計	2,291												
百万円																																						
減損損失	287																																					
減損損失	2,003																																					
計	2,291																																					
百万円																																						
減損損失	287																																					
減損損失	2,003																																					
計	2,291																																					
百万円																																						
減損損失	287																																					
減損損失	2,003																																					
計	2,291																																					

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

（注）前中間決算計期間、当中間決算計期間、前中間決算計年度の各期間の開始日及び終了日は、それぞれ平成16年4月1日、平成17年4月1日、平成18年4月1日である。

(リース取引関係)

当中国銀行の計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年4月30日)	前中国銀行の計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成16年4月30日)																								
※1. 現金及び現金同等物の期末残高と、前中国銀行が現金同等物を計上している科目の金額との関係	※1. 現金及び現金同等物の期末残高と、前中国銀行が現金同等物を計上している科目の金額との関係																								
<table border="1"> <tr> <td>現金及び現金勘定</td><td>百万円</td></tr> <tr> <td>有価証券勘定</td><td>53,457</td></tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超え える定期預金</td><td>38,563</td></tr> <tr> <td>取得日から償還日まで の期間が3か月を超え る借入金等</td><td>△1</td></tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td><td>百万円</td></tr> <tr> <td></td><td>53,457</td></tr> </table>	現金及び現金勘定	百万円	有価証券勘定	53,457	預入期間が3か月を超え える定期預金	38,563	取得日から償還日まで の期間が3か月を超え る借入金等	△1	現金及び現金同等物	百万円		53,457	<table border="1"> <tr> <td>現金及び現金勘定</td><td>百万円</td></tr> <tr> <td>有価証券勘定</td><td>54,141</td></tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超え る定期預金</td><td>△1</td></tr> <tr> <td>取得日から償還日まで の期間が3か月を超え る借入金等</td><td>24,270</td></tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td><td>百万円</td></tr> <tr> <td></td><td>54,141</td></tr> </table>	現金及び現金勘定	百万円	有価証券勘定	54,141	預入期間が3か月を超え る定期預金	△1	取得日から償還日まで の期間が3か月を超え る借入金等	24,270	現金及び現金同等物	百万円		54,141
現金及び現金勘定	百万円																								
有価証券勘定	53,457																								
預入期間が3か月を超え える定期預金	38,563																								
取得日から償還日まで の期間が3か月を超え る借入金等	△1																								
現金及び現金同等物	百万円																								
	53,457																								
現金及び現金勘定	百万円																								
有価証券勘定	54,141																								
預入期間が3か月を超え る定期預金	△1																								
取得日から償還日まで の期間が3か月を超え る借入金等	24,270																								
現金及び現金同等物	百万円																								
	54,141																								

前中間決算会計期間 (自 平成16年1月1日 至 平成16年9月30日)	当中間決算会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	前決算会計年度 (自 平成16年3月31日 至 平成16年3月31日)																														
1. フーズ物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 (1) フーズ物件の取得価額当額、減価償却累計額当額及び中間期末残高当額	1. フーズ物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 (1) フーズ物件の取得価額当額、減価償却累計額当額、減価償却累計額当額及び中間期末残高当額	1. フーズ物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 (1) フーズ物件の取得価額当額、減価償却累計額当額及び期末決算当額																														
<table> <tr> <th>取得及び償却 累計額</th><th>取得価額 当額</th><th>減価償却 累計額 当額</th><th>減価償却 累計額 当額</th><th>減価償却 累計額 当額</th></tr> <tr> <td>11,317</td><td>2,650</td><td>8,667</td><td></td><td></td></tr> </table>	取得及び償却 累計額	取得価額 当額	減価償却 累計額 当額	減価償却 累計額 当額	減価償却 累計額 当額	11,317	2,650	8,667			<table> <tr> <th>取得及び償却 累計額</th><th>取得価額 当額</th><th>減価償却 累計額 当額</th><th>減価償却 累計額 当額</th><th>減価償却 累計額 当額</th></tr> <tr> <td>10,136</td><td>2,353</td><td>7,783</td><td></td><td></td></tr> </table>	取得及び償却 累計額	取得価額 当額	減価償却 累計額 当額	減価償却 累計額 当額	減価償却 累計額 当額	10,136	2,353	7,783			<table> <tr> <th>取得及び償却 累計額</th><th>取得価額 当額</th><th>減価償却 累計額 当額</th><th>減価償却 累計額 当額</th><th>減価償却 累計額 当額</th></tr> <tr> <td>10,572</td><td>2,353</td><td>8,219</td><td></td><td></td></tr> </table>	取得及び償却 累計額	取得価額 当額	減価償却 累計額 当額	減価償却 累計額 当額	減価償却 累計額 当額	10,572	2,353	8,219		
取得及び償却 累計額	取得価額 当額	減価償却 累計額 当額	減価償却 累計額 当額	減価償却 累計額 当額																												
11,317	2,650	8,667																														
取得及び償却 累計額	取得価額 当額	減価償却 累計額 当額	減価償却 累計額 当額	減価償却 累計額 当額																												
10,136	2,353	7,783																														
取得及び償却 累計額	取得価額 当額	減価償却 累計額 当額	減価償却 累計額 当額	減価償却 累計額 当額																												
10,572	2,353	8,219																														
(注) 取得価額当額は、有価証券などの中間期末残高等に占める未経過リース料期末残高等が低いとき、支払利(込み法)により算定しております。	(注) 取得価額当額は、有価証券などの中間期末残高等に占める未経過リース料期末残高等が低いとき、支払利(込み法)により算定しております。	(注) 取得価額当額は、有価証券などの中間期末残高等に占める未経過リース料期末残高等が低いとき、支払利(込み法)により算定しております。																														
(2) 未経過リース料中間期末残高当額	(2) 未経過リース料中間期末残高当額	(2) 未経過リース料中間期末残高当額																														
<table> <tr> <th>1年以内</th><th>1年超</th><th>合計</th></tr> <tr> <td>954</td><td>7,712</td><td>8,667</td></tr> </table>	1年以内	1年超	合計	954	7,712	8,667	<table> <tr> <th>1年以内</th><th>1年超</th><th>合計</th></tr> <tr> <td>619</td><td>7,163</td><td>7,783</td></tr> </table>	1年以内	1年超	合計	619	7,163	7,783	<table> <tr> <th>1年以内</th><th>1年超</th><th>合計</th></tr> <tr> <td>894</td><td>7,319</td><td>8,213</td></tr> </table>	1年以内	1年超	合計	894	7,319	8,213												
1年以内	1年超	合計																														
954	7,712	8,667																														
1年以内	1年超	合計																														
619	7,163	7,783																														
1年以内	1年超	合計																														
894	7,319	8,213																														
(注) 未経過リース料中間期末残高当額は、有価証券などの中間期末残高等に占める未経過リース料期末残高等が低いとき、支払利(込み法)により算定しております。	(注) 未経過リース料中間期末残高当額は、有価証券などの中間期末残高等に占める未経過リース料期末残高等																															

(有価証券関係)

前中間連結会計期間末(平成16年9月30日)

1. 満期保有目的の債券で時価のあるもの

	中間連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 社債	1,000	999	△0
(2) その他	4,999	4,998	△0
合計	5,999	5,998	△1

2. その他有価証券で時価のあるもの

	取得原価(百万円)	中間連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
(1) 株式	3,188	9,386	6,198
(2) 債券	760	760	—
国債・地方債			
(3) その他	8,126	8,043	△83
合計	12,075	18,240	6,165

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容

	中間連結貸借対照表 計上額(百万円)
満期保有目的の債券	12,999
その他の有価証券	17,676
マネー・マネジメント・ファンド	

(注) 当中間連結会計期間において、有価証券について47百万円(その他の有価証券で時価のある株式47百万円)減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、中間連結会計期間末における時価が取得価格に比べ50%以上下落した場合には全額減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当中間連結会計期間末(平成17年9月30日)

1. 満期保有目的の債券で時価のあるもの

	中間連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 社債	—	—	—
(2) その他	2,999	2,999	△0
合計	2,999	2,999	△0

2. その他有価証券で時価のあるもの

	取得原価(百万円)	中間連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
(1) 株式	2,894	10,703	7,808
(2) 債券	536	536	—
国債・地方債			
(3) その他	409	410	1
合計	3,840	11,650	7,810

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容

	中間連結貸借対照表 計上額(百万円)
満期保有目的の債券	7,999
その他の有価証券	11,767
NMFC	

(注) 減損処理にあたっては、中間連結会計期間末における時価が取得価格に比べ50%以上下落した場合には全額減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

前連結会計年度末(平成17年3月31日)

1. 満期保有目的の債券で時価のあるもの

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 社債	6,000	6,006	6
(2) その他	4,999	4,999	0
合計	10,999	11,006	6

2. その他有価証券で時価のあるもの

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
(1) 株式	2,891	8,881	5,990
(2) 債券	507	507	—
国債・地方債			
(3) その他	8,237	8,198	△38
合計	11,635	17,588	5,952

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容

	連結貸借対照表計上額 (百万円)
満期は有目的の債券	6,999
その他の有価証券 マナー・マネジメント・ファンド	19,040

(注) 有価証券について9百万円（その他の有価証券で時価のある株式7百万円、時価評価されていない株式2百万円）

減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、連結会計年度末における時価が取得価格に比し50%以下下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の契約額等、時価及び評価損益の状況

対象の の種類	取引の種類	前中期連結会計期間末 (平成15年9月30日)			当期中連結会計期間末 (平成15年9月30日)			前連結会計年度末 (平成15年3月31日)		
		契約額等 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)	契約額等 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)	契約額等 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
通貨	為替予約取引	7,982	7,947	△18	8,994	9,208	△4	9,029	8,705	△210
	通貨スワップ取引	11,925	△188	△189	26,540	△401	△401	12,784	△482	△482
	通貨オプション取引	104			155					
金利	金利スワップ取引	(2)	2	0	(1)	1	0	(1)		
	金利オプション取引	655	1	1	668	△2	△2	708	△1	△1
	金利スワップ取引	1,675	0	0						
	合計	22,343	7,762	△206	36,339	8,805	△408	22,522	8,250	△664

(注) 1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除いております。
2. 契約額等の欄の()の金額は通貨オプション取引のオプション料です。

(セグメント情報)

【事業の個別セグメント情報】

前中間連結会計期間（自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日）

	家庭用 製品事業 (百万円)	化粧品 (ソフイーナ) 事業 (百万円)	工業用 製品事業 (百万円)	計 (百万円)	消又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	346,586	39,339	83,113	469,039	—	469,039
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	13,478	13,478	(13,478)	—
計	346,586	39,339	96,591	482,518	(13,478)	469,039
営業費用	298,828	34,994	86,332	420,152	(13,577)	406,575
営業利益	47,758	4,348	10,259	62,365	98	62,464

当中間連結会計期間（自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日）

	家庭用 製品事業 (百万円)	化粧品 (ソフイーナ) 事業 (百万円)	工業用 製品事業 (百万円)	計 (百万円)	消又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	353,102	39,307	90,688	483,098	—	483,098
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	13,153	13,153	(13,153)	—
計	353,102	39,307	103,842	496,251	(13,153)	483,098
営業費用	305,771	35,429	92,134	433,336	(13,309)	420,027
営業利益	47,330	3,877	11,707	62,915	155	63,070

前連結会計年度（自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日）

	家庭用 製品事業 (百万円)	化粧品 (ソフイーナ) 事業 (百万円)	工業用 製品事業 (百万円)	計 (百万円)	消又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	690,006	78,294	168,530	936,851	—	936,851
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	28,439	28,439	(28,439)	—
計	690,006	78,294	196,969	965,290	(28,439)	936,851
営業費用	597,408	70,601	176,326	844,336	(28,864)	815,471
営業利益	92,597	7,693	20,663	120,954	425	121,379

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、製品の種類・性質及び販売方法の類似性を考慮し、家庭用製品、化粧品、工業用製品の事業に区分しております。

なお、「化粧品」は従来「化粧品（ソフイーナ）」と表現しておりましたが、国内でのブランド展開や海外事業の買収などにより、当該事業におけるブランドがソフイーナだけでなくなくなったことから、当中間連結会計期間より「化粧品」に名称を変更しました。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	売上区分	主要製品
家庭用製品事業	パーソナルケア製品	化粧品、スキンケア、シャンプー、リンス、ヘアケア製品、ヘアカラー、スプレー、歯みがき、歯ブラシ、男性化粧品
	ハウスマーケット製品	家庭用洗剤、家庭用洗剤、住居用洗剤、洗濯機上剤
	ユニタリーほか製品	生活用品、紙おむつ、食用油、飲料
	化粧品	ソレスジェン化粧品
工業用製品事業	化粧品	業務用食用洗剤、脂肪酸、潤滑オイル、グリース、潤滑アミン、界面活性剤、ボウフラゼン原料、合成界面活性剤、トナー、トナーエッセンス、香料
	工業用製品	工業用洗剤

従来の「化粧品（ソフイーナ）」事業の売上区分及び主要製品の内容は、各年度末の「化粧品事業」と変更ありません。

【所在地別セグメント情報】

前中間連結会計期間（自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	計 (百万円)	消又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	347,879	39,156	40,161	41,842	469,039	—	469,039
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	5,096	11,139	796	4,382	21,433	(21,433)	—
計	352,975	50,315	40,957	46,225	490,473	(21,433)	469,039
営業費用	397,046	48,787	38,253	43,916	428,003	(21,428)	406,575
営業利益	55,929	1,627	2,703	2,309	62,469	(5)	62,464

当中間連結会計期間（自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	計 (百万円)	消又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	333,687	40,169	45,047	44,193	463,098	—	463,098
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	5,008	12,541	1,064	5,453	24,067	(24,067)	—
計	338,695	52,710	46,102	49,646	507,155	(24,067)	483,098
営業費用	303,782	49,106	43,370	47,112	443,371	(23,344)	420,027
営業利益	54,913	3,604	2,731	2,534	63,784	(713)	63,070

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全生 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	693,017	77,458	82,408	83,967	936,851	—	936,851
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	10,067	22,823	1,230	9,836	43,958	(43,958)	—
計	703,084	100,282	83,638	93,803	980,809	(43,958)	936,851
営業費用	595,900	97,525	77,183	89,207	859,815	(44,045)	815,471
営業利益	107,184	2,756	6,455	4,595	121,292	86	121,379

(註) 1. 国又は地域の区分の方法

地理的近接度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

- (1) アジア：東アジア及び東南アジア諸国、オーストラリア
(2) 米州：米国、カナダ、メキシコ
(3) 欧州：ヨーロッパ諸国、南アフリカ

【海外壳上高】

前中間連結会計期間（自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日）				
	アジア	米州	欧州	計
Ⅰ 海外売上高（百万円）	42,796	39,869	41,175	123,840
Ⅱ 連結売上高（百万円）				
Ⅲ 連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	9.1	8.5	8.8	26.4

当中間連結会計期間（自平成17年4月1日至平成17年9月30日）

	アジヤ	米州	欧州	計
I 海外売上高 (百万円)	44, 211	46, 082	43, 481	132, 775
II 連結売上高 (百万円)				483, 098
III 連結売上高に占める海外売上の割合 (%)	9. 2	9. 3	9. 0	27. 5

前連結会計年度(自平成16年4月1日至平成17年3月31日)

[illegible]

(注) 1. 国又は地域の区分の方法

地理的近接度により区分しております。

各区分に属する上な国又は地域

- (1) アジア : 東アジア及び東南アジア諸国、オーストラリア
(2) 米州 : 米国、カナダ、メキシコ
(3) 欧州 : コーロンブス諸国、南アフリカ

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(1株当たり情報)

当期中連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月30日)	前期中連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)
1株当たり純資産 1株当たり中国株利益 潜在株式調整後1株当たり 中国株利益	1株当たり純資産 1株当たり中国株利益 潜在株式調整後1株当たり 中国株利益
812.63円 98.53円 67.94円	880.98円 70.75円 76.56円
131.16円 120.09円	821.47円 131.16円 120.09円

(注) 1株当たり中間(当期)純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

1株当たり年間(当期)純利益	前中間決算会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	当中間決算会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)
中開(当期)純利益(百万円)	37,761	38,486	72,189
普通株主に帰属しない金額(百万円)	(-)	(-)	91
(うち利益配分による役員賞与)	(-)	(-)	(91)
普通株主に帰属する中開(当期)純利益 (百万円)	37,761	38,486	72,098
期中平均株式数(千株)	351,170	343,868	649,625
得在株式調整後1株当たり中開(当期)純利益			
中開(当期)純利益調整額(百万円)	22	3	29
(うち当株主利益(税引額当額控除後))	(22)	(3)	(29)
普通株式調整後(千株)	12,702	1,510	9,023
(うち転換社債)	(12,602)	(1,426)	(8,948)
(うち新株予約権)	(99)	(34)	(75)
普通化調整係数(有しないため、當在株式調整後1株当たり年間(当期)純利益の算定に必要なかった普通株式の数量)	平成13年6月28日定時株主総会決議ストックオプション(自己株式譲渡方式)普通株式 168千株	平成13年6月28日定時株主総会決議ストックオプション(自己株式譲渡方式)普通株式 99千株	平成13年6月28日定時株主総会決議ストックオプション(自己株式譲渡方式)普通株式 99千株
	平成14年6月27日定時株主総会決議ストックオプション(新株予約権)普通株式 340千株	平成14年6月27日定時株主総会決議ストックオプション(新株予約権)普通株式 466千株	平成14年6月27日定時株主総会決議ストックオプション(新株予約権)普通株式 507千株
	平成16年6月29日定時株主総会決議ストックオプション(新株予約権)普通株式 1,163千株	平成16年6月29日定時株主総会決議ストックオプション(新株予約権)普通株式 1,151千株	平成16年6月29日定時株主総会決議ストックオプション(新株予約権)普通株式 1,151千株

(重要な後発事実)

前中間連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	前連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成16年3月31日)
		平成17年6月29日開催の臨時株主総会において、前法第210条の規定に基づき、本定時株主総会材料格の時から次期定時株主総会材料の時まで、当社普通株式を、株式の総数20,000千株、取得価額の総額50,000百万円を限度として取得することを決議しました。
		平成16年6月29日開催の臨時株主総会において、前法第210条の規定に基づき、同定時株主総会材料格の時から当期定時株主総会材料の時まで、当社普通株式を、株式の総数20,000千株、取得価額の総額50,000百万円を限度として取得することを決議しました。
		これを受けて、平成17年3月31日までには、自己株式17,604千株を44,997百万円で取得しておりますが、さらに、平成17年3月24日開催の取締役会において、平成17年4月1日から平成17年6月30日まで、株式の総数2,896千株、取得価額の総額5,002百万円を限度として取得することを決議し、下記のとおり取得しました。
		①取得した株式の総数 2,012千株 ②取得価額の総額 5,001百万円

(2) 【その他】

該当ありません。

2 【中間財務諸表等】

(1) 【中間財務諸表】

① 【中間貸借対照表】

区分	注記 番号	前中間会計期間末 (平成16年9月30日)		当中間会計期間末 (平成17年9月30日)		前事業年度の 要約貸借対照表 (平成17年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(資産の部)							
I 流動資産							
1. 現金及び預金		35,339		36,177		17,667	
2. 売掛金		54,483		53,806		55,801	
3. 有価証券		28,897		10,999		27,898	
4. たな卸資産		44,785		48,893		47,613	
5. その他		25,355		42,672		31,469	
6. 貸倒引当金		△39		△21		△19	
流動資産合計		188,830	30.0	192,327	30.9	180,430	29.8
II 固定資産							
(1) 有形固定資産	※2						
1. 建物	※1	57,123		54,095		55,727	
2. 機械及び装置	※1	55,375		51,606		51,679	
3. 土地		44,140		44,235		44,297	
4. 建設仮勘定		4,948		3,336		4,013	
5. その他	※1	16,721		17,197		17,048	
有形固定資産合計		178,309		170,471		172,717	
(2) 無形固定資産							
1. 商標権		47,900		40,666		44,285	
2. その他		7,870		7,986		7,937	
無形固定資産合計		55,770		48,651		52,222	
(3) 投資その他の資産							
1. 投資有価証券		115,519		127,273		114,837	
2. 出資金		52,673		49,417		48,343	
3. 長期貸付金		5,062		4,218		2,954	
4. その他		33,214		30,784		33,509	
5. 貸倒引当金		△61		△8		△9	
投資その他の資産 合計		206,408		211,715		199,631	
固定資産合計		440,488	70.0	430,818	69.1	424,574	70.2
資産合計		629,319	100.0	623,146	100.0	605,005	100.0

区分	注記 番号	前中間会計期間末 (平成16年9月30日)		当中間会計期間末 (平成17年9月30日)		前事業年度の 要約貸借対照表 (平成17年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(負債の部)							
I 流動負債							
1. 買掛金		59,378		60,270		58,868	
2. 一年以内に償還 予定の転換社債				1,068		2,596	
3. 未払金		15,847		13,030		12,934	
4. 未払費用		42,699		41,298		38,782	
5. 未払法人税等		17,767		14,997		16,180	
6. 預り金		—		31,486		31,590	
7. その他		31,895		2,251		2,812	
流動負債合計		167,589	26.6	164,403	26.4	163,766	27.0
II 固定負債							
1. 転換社債		7,874		—		—	
2. 退職給付引当金		10,946		885		5,647	
3. 役員退職慰労引当 金		180		180		180	
4. その他		81		82		82	
固定負債合計		19,082	3.1	1,148	0.2	5,909	1.0
負債合計		186,672	29.7	165,552	26.6	169,675	28.0
(資本の部)							
I 資本金							
資本剰余金		85,424	13.6	85,424	13.7	85,424	14.1
資本準備金		108,888		108,888		108,888	
資本剰余金合計		108,888	17.3	108,888	17.5	108,888	18.0
III 利益剰余金							
1. 利益準備金		14,116		14,116		14,116	
2. 任意積立金		278,952		208,735		278,952	
3. 中国未処分利益又は 当期未処分損失(△)		5,563		48,483		△45,349	
利益剰余金合計		298,632	47.4	271,336	43.5	247,719	41.0
IV その他の有価証券評価 差額金		3,325	0.5	4,138	0.7	3,147	0.5
V 自己株式		△33,621	△8.5	△12,193	△2.0	△9,850	△1.6
資本合計		412,646	70.3	457,591	73.4	435,329	72.0
負債資本合計		629,319	100.0	623,145	100.0	605,005	100.0

②【中間損益計算書】

区分	注記 番号	前中間会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)		当中間会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)		前事業年度の 要約損益計算書 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)
I 売上高		348,807	100.0	349,450	100.0	694,655	100.0
II 売上原価		138,973	39.8	145,226	41.6	281,953	40.6
売上総利益		209,833	60.2	204,224	58.4	412,702	59.4
III 販売費及び一般管理費		158,351	45.5	155,483	44.5	314,688	45.3
営業利益		51,482	14.7	48,740	13.9	98,013	14.1
IV 営業外収益	※1	3,679	1.1	5,261	1.5	7,012	1.0
V 営業外費用	※2	215	0.1	126	0.0	467	0.0
経常利益		54,745	15.7	53,875	15.4	104,558	15.1
VI 特別利益		498	0.1	39	0.0	1,405	0.2
VII 特別損失		2,083	0.6	967	0.3	8,124	1.2
税引前中間(当期) 純利益		53,160	15.2	52,947	15.1	97,839	14.1
法人税、住民税及び 事業税				14,435		33,535	
法人税等調整額							
中間(当期)純利益		2,064	5.5	3,097	5.0	1,785	5.1
前期繰越利益							
自己株式処分差損							
自己株式消却額							
中間配当額							
中間未処分利益又は 当期未処分損失(△)		5,563		48,483		19,521	
						△45,349	

中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

前中間決算期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年5月31日) 1. 資産の評価基準及び評価方法 (1) 有価証券 債権保有目的の債権 同左 子会社株式及び関連会社株式 同左 その他有価証券 時価のあるもの …中国法、日本の市場価格等に基づき時価法 …決算日は金融資本個人法により より処理し、売却額は移動平均法 により算定 時価のないもの …移動平均法による原価法 (2) たな卸資産 税率法による低額法 2. 固定資産の減価償却の方法 (1) 有価証券 定率法を採用しており、実質的劣存価 額まで償却しております。 なお、土地耐用年数は以下のとおりで あります。 建物……………21～25年 機械及び装置……7年、8年 また、消耗性減価が予測されるもの については、経済的耐用年数を見据え、 計画期的な規則に基拠して償却しております。 (2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりで あります。 商標……………10年 目録利用のソフトウェア ……………5年	当中間決算期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年5月31日) 1. 資産の評価基準及び評価方法 (1) 有価証券 債権保有目的の債権 同左 子会社株式及び関連会社株式 同左 その他有価証券 時価のあるもの …中国法、日本の市場価格等に基づき時 価法、(新)企業法は金融資本個人法に より処理し、売却額は移動平均法 により算定 時価のないもの …移動平均法による原価法 (2) たな卸資産 税率法による低額法 2. 固定資産の減価償却の方法 (1) 有価証券 定率法を採用しており、実質的劣存価 額まで償却しております。 なお、土地耐用年数は以下のとおりで あります。 建物……………21～25年 機械及び装置……7年、8年 また、消耗性減価が予測されるもの については、経済的耐用年数を見据え、 計画期的な規則に基拠して償却しております。 (2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりで あります。 商標……………10年 目録利用のソフトウェア ……………5年	前事業年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年5月31日) 1. 資産の評価基準及び評価方法 (1) 有価証券 債権保有目的の債権 同左 子会社株式及び関連会社株式 同左 その他有価証券 時価のあるもの …中国法、日本の市場価格等に基づき時価法 …決算日は金融資本個人法により より処理し、売却額は移動平均法 により算定 時価のないもの …移動平均法による原価法 (2) たな卸資産 税率法による低額法 2. 固定資産の減価償却の方法 (1) 有価証券 定率法を採用しており、実質的劣存価 額まで償却しております。 なお、土地耐用年数は以下のとおりで あります。 建物……………21～25年 機械及び装置……7年、8年 また、消耗性減価が予測されるもの については、経済的耐用年数を見据え、 計画期的な規則に基拠して償却しております。 (2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりで あります。 商標……………10年 目録利用のソフトウェア ……………5年	当中間決算期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年5月31日) 1. 資産の評価基準及び評価方法 (1) 有価証券 債権保有目的の債権 同左 子会社株式及び関連会社株式 同左 その他有価証券 時価のあるもの …中国法、日本の市場価格等に基づき時 価法、(新)企業法は金融資本個人法に より処理し、売却額は移動平均法 により算定 時価のないもの …移動平均法による原価法 (2) たな卸資産 税率法による低額法 2. 固定資産の減価償却の方法 (1) 有価証券 定率法を採用しており、実質的劣存価 額まで償却しております。 なお、土地耐用年数は以下のとおりで あります。 建物……………21～25年 機械及び装置……7年、8年 また、消耗性減価が予測されるもの については、経済的耐用年数を見据え、 計画期的な規則に基拠して償却しております。 (2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりで あります。 商標……………10年 目録利用のソフトウェア ……………5年
---	--	---	--

前期中間会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日) (3) 役員退職慰労引当金 役員退職慰労金の支給に備えるため、当社内規に基づく要支給見償額を計上しておりますが、平成16年7月以降は、要支給見償額を引当計上していません。従って、平成16年6月に役員退職慰労金を決定しており、平成16年7月以降は引当計上に引当計上を行っていません。	当中間会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日) (3) 役員退職慰労引当金 役員退職慰労金の支給に備えるため、当社内規に基づく要支給見償額を計上しておりますが、平成17年7月以降は、要支給見償額を引当計上していません。従って、当中間会計期間末の期終において、現行額が平成17年6月以降に引当計上していた期間に応じて引当計上した額であります。	前事業年度 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日) (3) 役員退職慰労引当金 役員退職慰労金の支給に備えるため、当社内規に基づく要支給見償額を計上しておりますが、平成16年7月以降は、要支給見償額を引当計上していません。従って、当中間会計期間末の期終において、現行額が平成16年6月以降に引当計上していた期間に応じて引当計上した額であります。
4. 外債等の資産及び負債の未払通償への換算率 外債等経信債借入れは、中間決算日の直物為替相場により円換に換算し、換算差額は損益として処理しております。 なお、為替予約等の不当処理の対象となっていない外債等経信債借入れについては、当期為替予約等の円換額に換算しております。	4. 外債等の資産及び負債の未払通償への換算率 外債等経信債借入れは、中間決算日の直物為替相場により円換に換算し、換算差額は損益として処理しております。 なお、為替予約等の不当処理の対象となっていない外債等経信債借入れについては、当期為替予約等の円換額に換算しております。	4. 外債等の資産及び負債の未払通償への換算率 外債等経信債借入れは、中間決算日の直物為替相場により円換に換算し、換算差額は損益として処理しております。 なお、為替予約等の不当処理の対象となっていない外債等経信債借入れについては、当期為替予約等の円換額に換算しております。
5. リース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもののリース・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。	5. リース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもののリース・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。	5. リース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもののリース・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
6. ヘッジ会計の方法 (1) ヘッジ会計の方法 同左 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 同左 (3) ヘッジ方針 同左	6. ヘッジ会計の方法 (1) ヘッジ会計の方法 同左 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 同左 (3) ヘッジ方針 同左	6. ヘッジ会計の方法 (1) ヘッジ会計の方法 同左 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 同左 (3) ヘッジ方針 同左
7. その他中間財務諸表作成のための取組となる重要な事項 (1) 消費税等の会計処理 同左 (2) 法人税、住民税及び事業税並びに法人税等調整額の計上方法 法人税等調整額の計上方法 同左	7. その他中間財務諸表作成のための取組となる重要な事項 (1) 消費税等の会計処理 同左 (2) 法人税、住民税及び事業税並びに法人税等調整額の計上方法 法人税等調整額の計上方法 同左	7. その他中間財務諸表作成のための取組となる重要な事項 (1) 消費税等の会計処理 同左 (2) 法人税、住民税及び事業税並びに法人税等調整額の計上方法 法人税等調整額の計上方法 同左

注記事項

前中間会計期間末 (平成16年9月30日)	前中間会計期間末 (平成17年9月30日)	前事業年度末 (平成17年3月31日)
※2. 有利出定資産の減価償却累計額	※2. 有利出定資産の減価償却累計額	※1. 国庫補助金の受入ににより取得価額へ り控除した固定資産の減価償却累計額は 680百万円であり、その内訳に建物20百 万円、構築物30百万円、機械及び装置 625百万円でありです。
3. 保証債務	3. 保証債務	3. 保証債務
(1) 当社は東京の明証指託制度による金 融機関（みずほ銀行3行）からの借 入金に対し、680百万円の連帯保証を 行っておりです。 また、関係会社2社の金融機関から の借入金に対し、1,035百万円の保証 を行っております。	(1) 当社は東京の明証指託制度による金 融機関（みずほ銀行3行）からの借 入金に対し、1370百万円の連帯保証を 行っております。 また、関係会社2社の金融機関から の借入金等に対し、3,108百万円の保 証を行っております。	(1) 当社は東京の明証指託制度による金 融機関（みずほ銀行3行）からの借 入金に対し、300百万円の連帯保証を 行っております。 また、関係会社2社の金融機関から の借入金に対し、408百万円の保証を 行っております。
(2) 関係会社1社の地方自治体からの借 入金に対し、300百万円の保証手続を 金融機関に行っております。	(2) 関係会社1社の地方自治体からの借 入金に対し、342百万円の保証手続を 金融機関に行っております。	(2) 関係会社1社の地方自治体からの借 入金に対し、333百万円の保証手続を 金融機関に行っております。
(3) 関係会社1社の株式会社系機関からの借 入金に対し、2510百万円の積立指託金 等の差入を金融機関に行っており です。	(3) 関係会社1社の株式会社系機関からの借 入金に対し、2710百万円の積立指託金 等の差入を金融機関に行っており です。	(3) 関係会社1社の株式会社系機関からの借 入金に対し、2540百万円の積立指託金 等の差入を金融機関に行っており です。

(中間損益計算書關係)

前中間会計期間	前中間会計期間	前中間会計期間
(山)	(山)	(山)
平成16年4月1日	平成16年4月1日	平成16年4月1日
平成16年4月30日	平成16年4月30日	平成16年4月30日
馬中間会計期間	馬中間会計期間	馬中間会計期間
(山)	(山)	(山)
平成16年4月1日	平成16年4月1日	平成16年4月1日
平成16年4月30日	平成16年4月30日	平成16年4月30日
前土要年度	前土要年度	前土要年度
(山)	(山)	(山)
平成16年4月1日	平成16年4月1日	平成16年4月1日
平成16年4月30日	平成16年4月30日	平成16年4月30日

营业外收益

前中間決算期間 (自 平成10年4月1日 至 平成10年6月30日)	当中間決算期間 (自 平成10年7月1日 至 平成10年9月30日)	当事業年度 (自 平成11年1月1日 至 平成11年3月31日)
※1. 営業外収益のうち重要なもの	※1. 営業外収益のうち重要なもの	※1. 営業外収益のうち重要なもの
受取利息 有価証券利息 受取配当金	受取利息 有価証券利息 受取配当金	受取利息 有価証券利息 受取配当金
百万円 25 3 2,184	百万円 41 2 3,764	百万円 52 7 3,900
※2. 営業外費用のうち重要なもの	※2. 営業外費用のうち重要なもの	※2. 営業外費用のうち重要なもの
支払利息 社債利息	支払利息 社債利息	支払利息 社債利息
百万円 44 37	百万円 60 5	百万円 105 49
3. 減価償却費	3. 減価償却費	3. 減価償却費
有形固定資産 無形固定資産	有形固定資産 無形固定資産	有形固定資産 無形固定資産
百万円 15,037 4,093	百万円 13,951 4,570	百万円 32,080 8,344

(1株当たり情報)

[illegible]

前中間会計期間、当中間会計期間及び前事業年度における子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(重要な後発事実)

前中間会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	前事業年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)
		平成17年6月29日開催の定時株主総会において、平成210条の規定に基づき、本定時株主総会を補の時から定期定時株主総会総会の時に、当社普通株式を、株式の総数20,000千株、取得価額の総額50,000万円を限度として取得することを決議しました。
		平成16年6月29日開催の定時株主総会において、前法第210条の規定に基づき、同定時株主総会総会の時から定期定時株主総会総会の時に、当社普通株式を、株式の総数20,000千株、取得価額の総額50,000万円を限度として取得することを決議しました。
		これを受けて、平成17年3月31日まで、自己株式1,094千株を44,997万円で購入しておりますが、さらに、平成17年3月24日開催の取締役会において、平成17年4月1日から平成17年6月29日まで、株式の総数2,396千株、取得価額の総額5,002百万円を限度として取得することを決議し、下記のとおり取得しました。 ① 取得した株式の総数 2,012千株 ② 取得価額の総額 5,000万円

(2) 【その他】

平成17年10月24日開催の取締役会に關し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………13,615,177,050円

(ロ) 1株当たりの金額……………25円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払い開始日……平成17年12月1日

(注) 平成17年9月30日の最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載してある株主、登録質権者または信託財産の委託者に対し、支払いを行います。

第6【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書
及びその添付書類
事業年度 自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日 平成17年6月29日
(第99期) 関東財務局長に提出
- (2) 臨時報告書
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号(特定子会社の異動)に基づく臨時報告書 平成17年11月4日
関東財務局長に提出
- (3) 有価証券届出書
及びその添付書類
ストックオプションとしての新株予約権の募集 平成17年6月29日
関東財務局長に提出
- (4) 有価証券届出書
の訂正届出書
(3)の有価証券届出書に係る訂正届出書 平成17年6月30日
平成17年7月8日
関東財務局長に提出
- (5) 自己株券買付状況報告書
自 平成17年3月1日 至 平成17年3月31日 平成17年4月14日
自 平成17年4月1日 至 平成17年4月30日 平成17年5月12日
自 平成17年5月1日 至 平成17年5月31日 平成17年6月14日
自 平成17年6月1日 至 平成17年6月29日 平成17年7月13日
自 平成17年6月29日 至 平成17年6月30日 平成17年7月13日
自 平成17年7月1日 至 平成17年7月31日 平成17年8月11日
自 平成17年8月1日 至 平成17年8月31日 平成17年9月9日
自 平成17年9月1日 至 平成17年9月30日 平成17年10月14日
自 平成17年10月1日 至 平成17年10月31日 平成17年11月11日
関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

平成16年11月9日

花王株式会社

取締役会 御中

監査法人トーマツ

指定社員 業務執行社員	公認会計士	吉田 修己	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	佐藤 嘉雄	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	安藤 武	印

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、経理の状況に揭げられている花王株式会社の平成16年4月1日から平成17年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（平成16年4月1日から平成16年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結剰余金計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書について中間監査を行った。この中間連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から中間連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間連結財務諸表には全体として中間連結財務諸表の有用な情報を表示し、投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間連結財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して、花王株式会社及び連結子会社の平成16年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間（平成16年4月1日から平成16年9月30日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。

独立監査人の中間監査報告書

平成17年11月8日

花王株式会社

取締役会 御中

監査法人トーマツ

指定社員 業務執行社員	公認会計士	吉田 修己	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	佐藤 嘉雄	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	安藤 武	印

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、経理の状況に揭げられている花王株式会社の平成17年4月1日から平成18年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結剰余金計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書について中間監査を行った。この中間連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から中間連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間連結財務諸表には全体として中間連結財務諸表の有用な情報を表示し、投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間連結財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して、花王株式会社及び連結子会社の平成17年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。

独立監査人の中間監査報告書

平成16年11月9日

花王株式会社

取締役会 御中

花王株式会社

取締役会 御中

平成17年11月8日

独立監査人の中間監査報告書

監査法人トーマツ

指定社員 業務執行社員	公認会計士	吉田 修己	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	佐藤 嘉純	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	安藤 武	印

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、総理の状況下に掲げられている花王株式会社（平成16年4月1日から平成17年3月31日までの第99期事業年度の中間会計期間（平成16年4月1日から平成16年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表及び中間損益計算書について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、花王株式会社の平成16年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成16年4月1日から平成16年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。

監査法人トーマツ

指定社員 業務執行社員	公認会計士	吉田 修己	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	佐藤 嘉純	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	安藤 武	印

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、総理の状況下に掲げられている花王株式会社（平成17年4月1日から平成18年3月31日までの第100期事業年度の中間会計期間（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表及び中間損益計算書について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、花王株式会社の平成17年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。

Exhibit A-2

1【取得状況】

(1)【定時総会決議による買受けの状況】

平成17年10月31日現在

区分	株式数（株）		価額の総額（円）
定時株主総会での決議状況 （平成17年6月29日決議）	20,000,000		50,000,000,000
報告月における取得自己株式（取得日）	月 日	—	—
計	—	—	—
報告月末現在の累積取得自己株式	—		—
自己株式取得の進捗状況（％）	—		—

（注）定時株主総会において商法第210条の規定に基づき決議された株式総数の、当該総会の終結した日現在の発行済株式総数に対する割合は、3.6％であります。

(2)【子会社からの買受けの状況】

平成17年10月31日現在

区分	株式数（株）		価額の総額（円）
取締役会での決議状況 （平成 年 月 日決議）	—		—
報告月における取得自己株式（取得日）	月 日	—	—
計	—	—	—
報告月末現在の累積取得自己株式	—		—
自己株式取得の進捗状況（％）	—		—

(3)【定款の定めによる取締役会決議による買受けの状況】

平成17年10月31日現在

区分	株式数（株）		価額の総額（円）
取締役会での決議状況 （平成 年 月 日決議）	—		—
報告月における取得自己株式（取得日）	月 日	—	—
計	—	—	—
報告月末現在の累積取得自己株式	—		—
自己株式取得の進捗状況（％）	—		—

2【処理状況】

平成17年10月31日現在

区分	処分、消却又は移転株式数（株）		処分価額の総額（円）
新株発行に関する手続を準用する処分を行った 取得自己株式	月 日	—	—
計	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	月 日	—	—
計	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る取得自己株式 の移転	月 日	—	—
計	—	—	—
合計		—	—

3 【保有状況】

平成17年10月31日現在

区分	株式数（株）
発行済株式総数	549,443,701
保有自己株式数	2,397,514

Exhibit A-3



RECEIVED
2005 DEC -7 P 2:11
OFFICE OF INTERNATIONAL
CORPORATE AFFAIRS

株主のみなさまへ

花王株式会社 中間事業報告書

2005.4.1—2005.9.30



商品の高付加価値化による“利益ある成長”をめざ

連結中間決算の概況

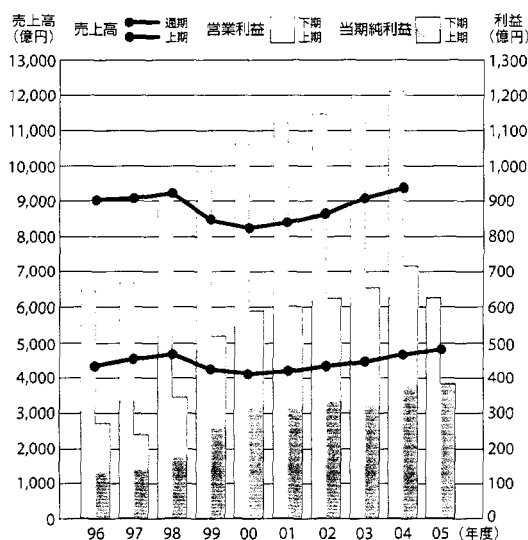
当中間期の売上高は、4,830億円（前年同期比103.0%）となりました。国内事業の売り上げは前年同期比1.6%の伸びとなりました。家庭用製品事業においては、高付加価値新製品の発売及び積極的なマーケティング活動による育成によって売り上げを拡大し、また工業用製品事業においても、新規開発製品の伸長により堅調に推移しました。一方、海外事業の売り上げは前年同期比8.0%の伸びとなりました。事業運営の

革新を図っているアジアの家庭用製品においては横ばいでしたが、欧米の家庭用製品と工業用製品は順調に推移しました。

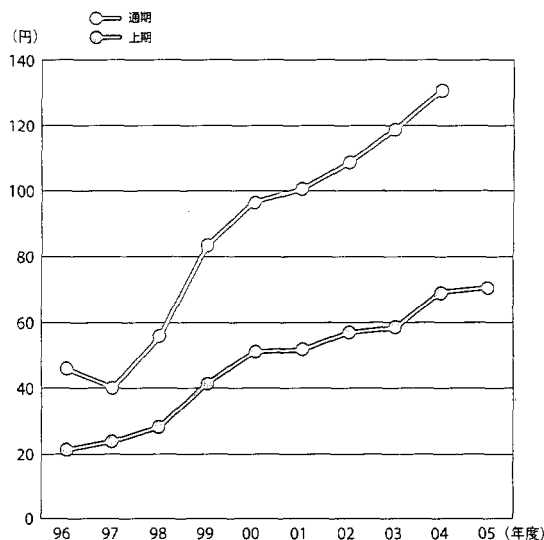
営業利益は、630億円（前年同期比101.0%）となりました。販売価格の下落や原料価格の上昇の影響を受けて売上原価率が上昇し、また、新製品や既存品の育成や販売強化のための費用も増加しましたが、売り上げの増加などにより、増益となりました。

経常利益は、636億円（前年同期比98.5%）

◇ 連結売上高・利益の推移



◇ 連結1株当たり純利益の推移

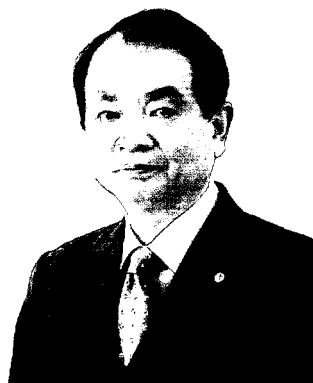
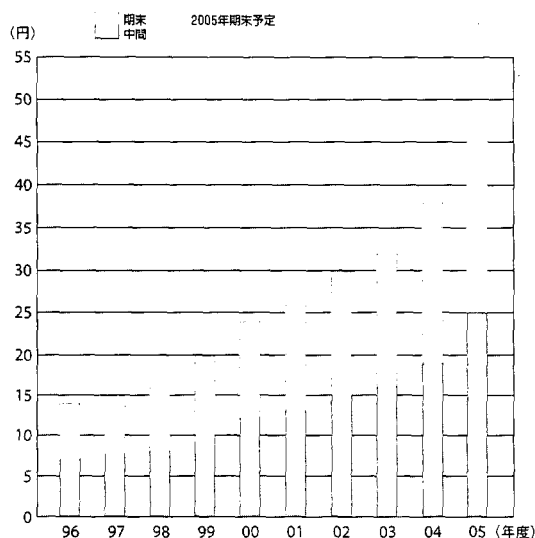


て

となりました。営業外損益は、前年同期の21億円の収益(純額)から、5億円の収益(純額)に減少しました。これは、主として持分法による投資損益が、前年同期の投資利益から投資損失に転じたことによるものです。

中間純利益は、384億円(前年同期比101.9%)となりました。税効果会計適用後の法人税等の負担率が、子会社の赤字額の減少や海外子会社の税率差などにより、前年同期の40.0%から37.4%に低下しました。

◇1株当たり配当金の推移



平成17年11月

花王株式会社

代表取締役
社長執行役員

尾崎 元規

当期の中間配当金は、当初の予定通り、前年同期より6円増配の1株当たり25円とさせていただきます。

今後の経営施策

当社は、厳しい事業環境の中、今年度当初より「商品の高付加価値化による“利益ある成長”の達成」を花王グループ全体の目標として掲げ、以下の3点の重点施策を力強く実行しております。

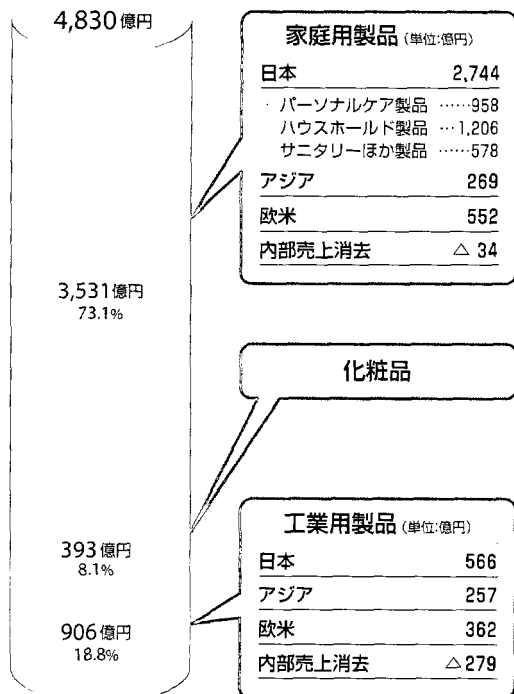
(1) 国内家庭用製品事業及び化粧品事業の強化とシェアの拡大

家庭用製品の市場においては、販売価格の下落や原料価格の上昇により、厳しい事業環

境が続いております。こうした中、当社は、市場シェアの拡大を図るべく、基幹ブランドの一層の強化と新製品の発売・育成及びさらなるコストダウン活動に努めております。

また、プレステージ化粧品分野における「ソフィ

◇ 中間連結売上高構成比



(注) 1. 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

2. グラフの売上高は、外部顧客に対する売上高を表示しております。

ーナ」ブランドの販売価格帯の市場は、依然、縮小傾向が続いておりますが、当社は、消費者の美容意識、購買行動及び流通チャネルの変化に対応した商品力の強化に努めております。さらに今年7月には高級化粧品ブランドの英国モルトン・ブラウン社を買収し、化粧品事業のグローバル展開の加速を図るとともに、国内化粧品事業と連携し、シナジー効果の発揮をめざしております。



▲ 世界70カ国以上で事業展開している英国モルトン・ブラウン社の商品

(2) 海外家庭用製品事業の成長の加速

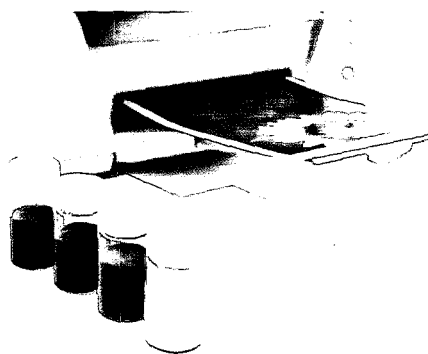
欧米においては、米国の花王ブランド社が、“プレミアムビューティケア”に焦点を絞った事業展開で着実な成長を続けております。スキンケア製品では「ジャーゲンズ」ブランドの「ナチュラル

グロー」、またヘアケア製品では「ジョン・フリーダ」ブランドの「ラディアントレッド」を発売し、米国及び欧州の消費者の高いご支持を得て、売り上げの増加にも大きく貢献しております。

アジアにおいては、消費者及び市場の変化に加えて、競合各社との競争も激化しておりますが、当社は、「アジア一体運営」の旗印の下、日本の本社機能と現地各社が一体となった事業運営の革新を図り、成長市場と見込んでいるこの地域において一層の発展をめざしてまいります。

(3)工業用製品事業のグローバル展開の充実

国内においては、トナー・トナーバインダーやインクジェットプリンターインク用色材などのスペ



▲順調に売り上げが増加しているインクジェットプリンターインク用色材

シャルティケミカルズが、特長ある製品によって、顧客の高いご支持を得て、順調に成長を続けております。

また、海外においては、マレーシア及びフィリピンに生産拠点を持つ油脂アルコール、米国で生産能力増強を図ったトナー・トナーバインダー及びドイツのコンクリート用高性能減水剤を中心に好調に推移しております。

最後になりますが、当社は以上のような積極的な事業展開を図るとともに、企業の社会的責任(コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ: CSR)を一層強く認識した企業活動を続けてまいります。

昨年7月には全社横断的な組織であるCSR委員会を設置し、すでに継続的な活動を行っておりますが、今年9月にはディスクロージャー、コンプライアンス及びリスクマネジメントの3つの視点に立って内部統制委員会を新たに設け、より高いレベルの「経営の質の向上」をめざしてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、こうした当社の姿勢に何卒ご理解を賜り、今後とも一層のご支援をいただきますようお願い申し上げます。

財務報告の要約

(記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。)

◇中間連結貸借対照表

(単位:億円)

資 産 の 部	当中間期 平成17年9月30日現在	前期 平成17年3月31日現在	負債、少数株主持分 及び資本の部	当中間期 平成17年9月30日現在	前期 平成17年3月31日現在
流 動 資 産	3,047	2,891	流 動 負 債	2,216	2,115
現 金 及 び 預 金	541	320	支 払 手 形 及 び 買 掛 金	761	709
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	1,059	1,035	未 払 金	200	191
有 価 証 券	243	403	未 払 費 用	673	632
た な 卸 資 産	891	817	未 払 法 人 税 等	200	196
そ の 他	311	314	そ の 他	380	385
固 定 資 産	4,214	3,996	固 定 負 債	178	217
有 形 固 定 資 産	2,618	2,602	長 期 借 入 金	7	14
建 物 及 び 構 築 物	899	899	そ の 他	171	203
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	808	801	負 債 合 計	2,395	2,333
土 地	620	625	少 数 株 主 持 分	75	74
そ の 他	289	276	資 本 金	854	854
無 形 固 定 資 産	1,125	862	資 本 剰 余 金	1,095	1,095
営 業 権	572	260	利 益 剰 余 金	3,278	2,993
商 標 権	407	443	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	48	35
そ の 他	146	158	為 替 換 算 調 整 勘 定	△ 360	△ 397
投 資 そ の 他 の 資 産	470	532	自 己 株 式	△ 123	△ 98
繰 延 資 産	1	1	資 本 合 計	4,792	4,482
資 産 合 計	7,263	6,889	負債、少数株主持分及び資本合計	7,263	6,889

(注)有形固定資産の減価償却累計額
当中間期 7,725億円 前期 7,615億円

●株主資本比率 当中間期 66.0% 前期 65.1%

ポイント

総資産は、前期末に比べ373億円増加しました。流動資産では、現金及び預金が増加し、また新製品の前造りなどにより、たな卸資産が増加しました。有形固定資産は、設備投資により増加し、無形固定資産は、モルトン・ブラウン社の買収に伴う営業権の計上などにより増加しました。一方で、有価証券及び投資有価証券が、上記の買収や設備投資などの資金に充てられ減少しました。

ポイント

負債は、企業年金基金への拠出により退職給付引当金が減少しましたが、買掛金や未払費用などが増加したことなどにより、前期末に比べ62億円増加しました。株主資本は、配当金の支払いや自己株式の市場買付による減少がありましたが、中間純利益が順調であったこと及び転換社債の株式への転換などにより前期末より310億円増加しました。

◇ 中間連結損益計算書

(単位:億円)

科 目	当中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	前年中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで
売 上 高	4,830	4,690
売 上 原 価	2,107	1,988
販売費及び一般管理費	2,093	2,077
営 業 利 益	630	624
営 業 外 損 益	5	21
経 常 利 益	636	646
特 別 損 益	△ 11	△ 10
税金等調整前中間純利益	624	636
法人税、住民税及び事業税等	233	254
少数株主利益(減算)	6	4
中 間 純 利 益	384	377

(注) 1株当たり中間純利益 当中間期 70円75銭
前年中間期 68円51銭

- 連結子会社は87社、持分法を適用した子会社・関連会社は21社です。
- 前年中間期に対する伸長率
 売 上 高 3.0%(海外売上高の換算為替差を除くと2.9%)
 営 業 利 益 1.0%
 経 常 利 益 △1.5%
 中間純利益 1.9%
- 海外売上高の連結売上高に占める割合は、27.5%で、前年中間期に比べて1.1ポイント増加しました。

ポイント

売上高は、前年中間期に比べ140億円増加しました。営業利益は、販売価格の下落や原料価格の上昇などで売上原価率は上昇しましたが、売上高の増加が寄与し、6億円増加しました。経常利益は、持分法による投資損益が利益から損失に転じたことなどにより9億円減少しました。中間純利益は、法人税等の負担率が下がったことから7億円の増加となりました。

◇ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科 目	当中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	前年中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	646	591
税金等調整前中間純利益	624	636
減 価 償 却 費	276	272
売上債権の増減額(増加:△)	△ 6	△ 43
たな卸資産の増減額(増加:△)	△ 52	△ 74
仕入債務の増減額(減少:△)	40	57
退職給付引当金の増減額(減少:△)	△ 65	△ 62
法人税等の支払額	△ 206	△ 199
そ の 他	36	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 451	△ 310
有形固定資産の取得による支出	△ 222	△ 266
新規連結子会社買収に伴う支出	△ 316	—
そ の 他	87	△ 43
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 154	△ 484
借入金等の増減額(減少:△)	7	22
自己株式の取得による支出	△ 55	△ 410
配 当 金 の 支 払 額	△ 109	△ 100
そ の 他	2	4
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	△ 8
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	51	△ 212
現金及び現金同等物の期首残高	704	1,071
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加高	7	—
連結等外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 8	—
現金及び現金同等物の中間期末残高	755	859

ポイント

営業活動により得られたキャッシュ・フローは、順調に推移しました。投資活動では、設備投資のほか、モルトン・ブラウン社の買収に伴う支出がありました。財務活動では、配当金の支払いや自己株式の市場買付(前期取得枠の未行使分)を行いました。その結果、現金及び現金同等物の中間期末残高は、前期末に比べ51億円増加しました。

新製品のご紹介

リセッシュ®

緑茶のチカラでスッカリ消臭!

天然の緑茶から取り出した消臭成分を配合した新しい衣類・布製品用消臭スプレーの「リセッシュ」が誕生しました。衣類や布製品についた生活の中の気になるニオイに対して、緑茶のチカラがしっかりとらいて、高い消臭効果を発揮します。除菌成分も配合されているので、菌の繁殖もしっかり抑えます。小さなお子様やペットのいるご家庭でも安心してお使いいただけます。

リセッシュ

リセッシュ

めぐりズム® 蒸気温熱パワー〈一般医療機器〉

蒸気が出る温熱シート誕生

「めぐりズム 蒸気温熱パワー」は、気持ちよい蒸気が出る新開発のシート状の発熱体を採用した温熱シートで、患部を温める一般医療機器です。快適温度約40℃が5～8時間続きます。専用ベルトに入れて使う「腰腹用ワイドシート」と、直接肌に貼って使う「肌に貼るシート」の2タイプがあります。

【効能効果】温熱効果 1.血行をよくする 2.筋肉のこりをほぐす 3.筋肉の疲れをとる 4.胃腸の働きを活性にする 5.神経痛、筋肉痛の痛みの緩解 6.疲労回復



●ホームページのご案内

下記の当社ホームページでは、決算や新製品のお知らせなど、さまざまな情報を提供しております。ぜひご覧下さい。

<http://www.kao.co.jp>

●株式に関するお問い合わせ先(名義書換代理人)

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行事務センター
TEL (03) 3323-7111(代)

●お手続き用紙のご請求について

住所変更、名義書換請求、単元未満株式買取・買増請求及び配当金振込指定等に必要の各用紙のご請求は、名義書換代理人の下記のフリーダイヤル及びホームページにて24時間受け付けております。

☎0120-87-2031(自動応答)

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

(注) 証券保管振替制度をご利用の場合は、お取引のある証券会社にお申し出下さい。

清潔で美しくすこやかな毎日をめざして

花王株式会社

この印刷物は、再生紙を使用しております。